

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	弘前大学
設置者名	国立大学法人弘前大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
人文社会科学部	文化創生課程	夜・通信	329		100	429	13	
	社会経営課程	夜・通信					13	
教育学部	学校教育教員養成課程	夜・通信			395	724	13	
	養護教諭養成課程	夜・通信					13	
医学部	医学科	夜・通信			171	500	19	
	保健学科	夜・通信			438	767	13	
	心理支援科学科	夜・通信			102	431	13	
理工学部	数物科学科	夜・通信			105	434	13	
	物質創成化学科	夜・通信					13	
	地球環境防災学科	夜・通信					13	
	電子情報工学科	夜・通信					13	
	機械科学科	夜・通信					13	
	自然エネルギー学科	夜・通信					13	
農学生命科学部	生物学科	夜・通信			105	434	13	
	分子生命科学科	夜・通信					13	
	食料資源科学科	夜・通信					13	
	国際園芸農学科	夜・通信					13	
	地域環境工学科	夜・通信					13	

(備考)

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/4/2023/05/jitumukeiken_r5.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由) 該当学部なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	弘前大学
設置者名	国立大学法人弘前大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.hirosaki-u.ac.jp/info/about/yakuin/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤 (総務担当)	前職：東京大学研究推進部長	2022.4.1～ 2024.3.31	総務，財務，施設及び内部統制に関すること
常勤 (社会連携担当)	前職：青森県危機管理局長	2023.4.1～ 2024.3.31	社会連携及び男女共同参画に関すること
非常勤 (特命担当)	前職：無（令和3年3月まで弘前大学教授）	2022.4.1～ 2024.3.31	特命事項に関すること
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	弘前大学
設置者名	国立大学法人弘前大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業担当教員が、各学部・研究科等の AP, CP, DP に即して授業計画(シラバス)を立案する。その後、各学部・研究科等においてカリキュラムチェックを行い、必要に応じて内容の改善を求め、修正を行わせている。 シラバスの作成は、2月上旬から着手し、新年度の4月からホームページ上で公表している。	
授業計画書の公表方法	https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価方法、採点基準をシラバスに明記したうえで、各学部等が定めた成績評価基準に基づき、成績評価を行い、単位を授与している。なお、教育推進機構において、全学的な成績評価方法、採点基準の考え方を共有するため、「成績評価ガイドライン」を策定・周知している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

「弘前大学GPAに関する要項」に基づき、GPAを算出し、各学期の成績通知表配付時に学生に通知している。

また、成績の分布状況については、教育推進機構会議にて把握し、授業科目の改善に結びつけている。

弘前大学 GPA に関する要項

(平成 28 年 12 月 5 日学長裁定 第 87 号)

(目的)

第1 この要項は、国立大学法人弘前大学（以下「本学」という。）の学部におけるグレード・ポイント・アベレージ（履修科目の成績の平均値。以下「GPA」という。）に関し必要な事項を定め、教育課程における学習到達度を客観的に評価することにより、大学教育の質を保証するとともに、履修指導、学習支援等に資することを目的とする。

(評価等)

第2 学生が履修した授業科目の成績の評語及びグレード・ポイント（評価により与えられる数値。以下「GP」という。）は、次表のとおりとする。

評語	評 点	合否種別	GP
秀	100 点～90 点	合 格	4
優	89 点～80 点		3
良	79 点～70 点		2
可	69 点～60 点		1
不可	59 点～ 0 点	不合格	0

(GPA の算定)

第3 各学期の GPA（以下「学期 GPA」という。）及び累積の GPA（以下「累積 GPA」という。）は、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第一位未満の端数があるときは、小数点以下第二位の値を四捨五入するものとする。

$$\text{学期 GPA} = \frac{(\text{当該学期の履修科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{当該学期の履修登録した科目の総単位数}}$$

$$\text{累積 GPA} = \frac{(\text{全学期の履修科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{修得した科目の総単位数}}$$

(対象授業科目等)

第4 本学で開講するすべての授業科目を GPA の対象授業科目とする。

2 前項の規定にかかわらず、既修得単位の取扱いで、本学で開講する授業科目への単位認定結果が評語又は評点の付与を伴わない場合は、GPA の対象外とする。

(履修取りやめ等の取扱い)

第5 定められた期限までに履修の取りやめの手続きを行ったものは、GPA には算入しない。取りやめの手続きをせずに、履修を放棄した科目については GP を 0 とし、学期 GPA に算入するが、累積 GPA には算入しない。

(再履修等における GPA の取扱い)

第6 不合格科目を再履修し、合格の評価を得た場合及び再履修の結果再び不合格の評価であった場合の、それぞれの再履修前の不合格評価、並びに再履修の結果の不合格評価については、累積 GPA には算入しない。ただし、学期 GPA にはそれぞれ算入する。

(GPA の通知)

第7 GPA は、成績通知表配布時に学生へ通知する。

(GPA の活用)

第8 GPA は、学期 GPA を学生指導等に、累積 GPA を学生の推薦や就職活動等に活用するものとする。

(その他)

第9 この要項に定めるもののほか、GPA の取扱いに関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この要項は、平成 29 年 4 月 1 日から施行し、平成 29 年度前期の成績から適用する。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/2/2012/07/GPA.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【人文社会科学部】

○学位授与方針

人文社会科学部では、カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程に沿って、人文社会科学分野の諸領域における専門知識・技能等を習得するとともに、高い倫理観と強い社会的使命感をもって、修得した知識・技能等を地域社会の発展のために活用できる人に対して、学士（人文社会科学）の学位を授与します。具体的には、次の目標に達していることが学位取得の要件となります。

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに、人間の本質を深く理解しつつ、社会の動向を見通す力を修得していること。
- ・専門知識・技能を実践の場に活かすことによって、現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。
- ・歴史文化に対する深い認識と人間社会に対する広い視野をもって、生涯にわたって自分自身を成長させていくための探究力を修得していること。

各課程・コースでは、人文社会科学部のディプロマ・ポリシーに加え、課程・コース別に、以下の能力を修得していることを求めます。

(文化創生課程・文化資源学コース)

- ・有形無形の文化資源の学術的価値を見極める力
- ・文化資源に関する専門的知識・技能を活用することで、地域の文化を振興し、人類共通の遺産を次世代に継承する実践力

(文化創生課程・多文化共生コース)

- ・英語をはじめとする外国語の高い運用能力、歴史学や国際地域に関する専門的知識を有し、グローバル化の進展に伴って大きく変化する時代の動向を見通す力
- ・英語をはじめとする外国語の高い運用能力、歴史学、国際地域に関する専門的知識を活用することで、地域社会のグローバル化に対応することのできる実践力

(社会経営課程・経済法律コース)

- ・経済学と法学の専門的知識・技能を有し、経済・金融・雇用・生活等にかかわる諸問題の状況を的確に理解できる力
- ・経済学と法学の専門的知識・技能を活用することで、地方自治体等が抱える課題を創造的で公正かつ適切に解決する力

(社会経営課程・企業戦略コース)

- ・経営学と会計学の専門的知識・技能を有し、新産業の創出やイノベーション等の諸課題を的確に分析し見通す力
- ・経営学と会計学の専門的知識・技能を活用することで、地域企業や地域産業の育成と発展に貢献することのできる実践力

(社会経営課程・地域行動コース)

- ・地域社会に関する専門的知識と調査技能を有し、社会現象や人々の行動を把握する力
- ・専門的知識・技能を活用することで、地域社会や人々の課題を発見・分析し、地域民と協働して課題解決にむかう実践力

○適切な実施に係る取組の概要

各授業科目について、具体的な到達目標をシラバスに記載し学生に公表したうえ

で、人文社会科学部において定めた成績評価基準に基づき成績評価を行い、人文社会科学部学務委員会及び人文社会科学部教授会の議を経て卒業を認定している。

【教育学部】

○学位授与方針

教育学部は、教育に関する専門力と実践力を有し、高い倫理性と絶えざる向上心を備えた「教育プロフェッショナル」として、自律的・協働的に教育に貢献し得る者に対して学士（教育学）の学位を授与します。具体的には次の力を有することが学位取得の要件となります。

（学校教育教員養成課程・初等中等教育専攻）

- ・教育学の専門的な知識や技能を修得し、教育現象を深く洞察できる力を修得していること。
- ・教育者としての倫理観や向上心を持ち、教育実践を主体的に推進できる力を修得していること。
- ・地域社会で活躍する教育者として、日々変化する教育課題の解決に貢献し続ける力を修得していること。
- ・各教科の専門的な知識に基づき、小学校及び中学校において指導・実践する力を修得していること。
- ・時代とともに変化する教育課題に対応できる広い視野をもち、考え向き合っていく力を修得していること。

（学校教育教員養成課程・特別支援教育専攻）

- ・教育学の専門的な知識や技能を修得し、教育現象を深く洞察できる力を修得していること。
- ・教育者としての倫理観や向上心を持ち、教育実践を主体的に推進できる力を修得していること。
- ・地域社会で活躍する教育者として、日々変化する教育課題の解決に貢献し続ける力を修得していること。
- ・障害等の特別な教育的ニーズを教育、心理、病理などの多方面から理解し支援するための基礎的・専門的知識を修得していること。
- ・各教科の専門的な知識及び特別支援教育に関する基礎的・専門的知識に基づき、教育現場で生かす実践的な力を修得していること。

（養護教諭養成課程）

- ・教育学の専門的な知識や技能を修得し、教育現象を深く洞察できる力を修得していること。
- ・教育者としての倫理観や向上心を持ち、教育実践を主体的に推進できる力を修得していること。
- ・地域社会で活躍する教育者として、日々変化する教育課題の解決に貢献し続ける力を修得していること。
- ・健康教育と健康管理によって、児童・生徒の発育発達を支援するために必要な専門的知識を修得していること。
- ・養護実践学・保健医科学に関する基礎的・専門的知識に基づき、教育現場で生かす実践的な力を修得していること。

○適切な実施に係る取組の概要

各授業科目について、具体的な到達目標をシラバスに記載し学生に公表したうえで、教育学部において定めた成績評価基準に基づき成績評価を行い、教育学部学務委員会及び教育学部教授会の議を経て卒業を認定している。

【医学部医学科】

○学位授与方針

医学部医学科では、カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程に沿って医学的専門知識と技能を習得するとともに、人間の尊厳を希求し、医学の発展の一翼を担うために、求められる社会的役割を的確に果たすことができる三つの素養を身につけたものに対して、学士（医学）の学位を授与します。具体的には、つぎの目標に達していることが学位授与の条件となります。

- ・豊かな人間性と高度な医学の専門知識を身につけ、人間的・科学的観点から社会の要請を見通す力を身に付けていること
- ・広い視野と柔軟な思考力を基盤に、医療・医学の問題を解決していく実践的な力を身に付けていること
- ・専門性を生かした国際基準の基礎的かつ、応用的な医学・医療を常に学修し、生涯にわたり自らを成長させ続ける力を身に付けていること

○適切な実施に係る取組の概要

各授業科目について、具体的な到達目標をシラバスに記載し学生に公表したうえで、医学部医学科において定めた成績評価基準に基づき成績評価を行い、医学部医学科学務委員会及び医学部医学科教授会の議を経て卒業を認定している。

【医学部保健学科】

○学位授与方針

医学部保健学科では、カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程に沿って保健医療分野における専門知識・技能等を習得するとともに、豊かな人間性と倫理性を兼ね備え、国民の健康と福祉に貢献できる者に対して、看護学専攻は学士（看護学）の学位を、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻は学士（保健学）の学位を授与します。具体的には、つぎの目的に達していることが学位取得の要件となります。

（看護学専攻）

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い知識と各保健医療専門職としての専門的な知識・技術をもとに、保健医療分野の動向を見通す力を身に付けていること。
- ・修得した専門的知識・技術を保健医療の場で活かすことにより、直面する課題を解決する力をもっていること。
- ・医療専門職者として保健医療を正しく認識し社会貢献を意識し、生涯にわたり自分自身を成長させていくための探求力を身に付けていること。
- ・看護専門職に必要な最新の専門知識及び人間や社会への洞察を深化させ見通す力を身に付けていること。
- ・看護を取り巻く社会的ニーズの変化に柔軟に対応し、チーム医療の一員として、他職種との連携・協働、調整及び問題を解決する実践力を身に付けていること。

（放射線技術科学専攻）

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い知識と各保健医療専門職としての専門的な知識・技術をもとに、保健医療分野の動向を見通す力を身に付けていること。
- ・修得した専門的知識・技術を保健医療の場で活かすことにより、直面する課題を解決する力をもっていること。
- ・医療専門職者として保健医療を正しく認識し社会貢献を意識し、生涯にわたり自分自身を成長させていくための探求力を身に付けていること。
- ・最新の専門知識と技術及び論理的思考と客観的判断に基づく洞察力を身に付けていること。

- ・放射線技術の専門知識を最新の医療技術に応用できる学術的問題解決能力を身に付けていること。

(検査技術科学専攻)

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い知識と臨床検査技師としての専門的な知識・技術をもとに、保健医療分野の動向を見通す力を身に付けていること。
- ・習得した専門的知識・技術を保健医療の場で活かすことにより、直面する課題を解決する力を身に付けていること。
- ・医療専門職者として保健医療の正しい認識と社会貢献の意識、および生涯にわたり自分自身を成長させていくための探求力を身に付けていること。
- ・最新の専門知識、判断力、実践力をもって臨床検査学の諸問題を的確に見極める能力を身に付けていること。
- ・チーム医療の一員として地域の保健医療に貢献できる連携能力を身に付けていること。

(理学療法学専攻)

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い知識と保健医療専門職としての専門的な知識・技術をもとに、保健医療分野の動向を見通す力を身に付けていること。
- ・修得した専門的知識・技術を保健医療の場で活かすことにより、他の専門職と協働・連携して個人や1地域社会が直面している保健医療上の問題や課題を解決していく力を身に付けていること。
- ・理学療法士として社会貢献を意識し、自己の成長と保健医療分野の発展のために生涯にわたって学び続ける力を身に付けていること。

(作業療法学専攻)

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い知識と保健医療専門職である作業療法士としての専門的な知識・技術をもとに、保健医療分野の動向を見通す力を身に付けていること。
- ・修得した専門的知識・技術を保健医療の場で活かすことにより、直面する課題を解決する力をもっていること。
- ・保健医療専門職者として保健医療を正しく認識し社会貢献を意識し、生涯にわたり自分自身を成長させていくための探求力を身に付けていること。
- ・最新の専門知識、実践力及び判断力、作業療法学の諸問題を的確に見極める能力を身に付けていること。
- ・チーム医療の一員として地域のリハビリテーション医療に貢献しうる問題解決能力を身に付けていること。

○適切な実施に係る取組の概要

各授業科目について、具体的な到達目標をシラバスに記載し学生に公表したうえで、医学部保健学科において定めた成績評価基準に基づき成績評価を行い、医学部保健学科学務委員会及び医学部保健学科会議の議を経て卒業を認定している。

【医学部心理支援科学科】

○学位授与方針

医学部心理支援科学科では、心理学分野における専門的知識・技能等を、医学・保健学分野における基本的知識・技能等を修得するとともに、豊かな人間性と倫理性を兼ね備え、地域の心理支援のリーダーとして地域住民の健康増進と福祉に貢献できる者に対して、学士（心理学）の学位を授与します。具体的には、つぎの目標に達していることが学位取得の要件となります。

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い専門的な知識、心理学的支援の根幹となる心理学及び主要領域である医学・保健医療の基本的な知識・技術をもとに、地

域が抱える心理学的課題の動向を見通す力を身に付けていること。

- ・心理学を中心とした専門的知識・技術を、医学・保健医療分野をはじめとする諸分野で活かすことにより、支援を必要とする者及び地域が抱える直面する心理学的課題を解決する力をもっていること。
- ・心理学に基づく支援方法及び医学・保健医療の基本的な知識・技術等を修得し、社会貢献を意識して、生涯にわたり自分自身を成長させていくための探求力を身に付けていること。

○適切な実施に係る取組の概要

各授業科目について、具体的な到達目標をシラバスに記載し学生に公表したうえで、医学部心理支援科学科において定めた成績評価基準に基づき成績評価を行い、医学部心理支援科学科学務委員会及び医学部心理支援科学科会議の議を経て卒業を認定する。

【理工学部】

○学位授与方針

理工学部では、カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程に沿って理工学の諸分野における専門知識・技能等を習得し、高い倫理観をもって知的探求に取り組み、科学・技術、世界と地域の発展のために活用できる力を身に付けた人に対して、学士（理工学）の学位を授与します。具体的には、つぎの目標に達していることが学位取得の要件です。

（数物科学科・数理科学コース）

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに、自然科学の本質を深く理解し、理工学と社会の動向を見通す力を修得していること。
- ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって、現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。
- ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって、生涯にわたって自らを成長させていくための力を修得していること。
- ・数学の知識を活かして、科学・技術や社会の問題を分析し、数理的な問題を的確に見極める力、問題の本質を構成する法則性を見いだす力を修得していること。
- ・代数学、幾何学、解析学、応用数学の知識を活かして課題を数理的に解決する力を修得していること。

（数物科学科・物質宇宙物理学コース）

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに、自然科学の本質を深く理解し、理工学と社会の動向を見通す力を修得していること。
- ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって、現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。
- ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって、生涯にわたって自らを成長させていくための力を修得していること。
- ・物理学に関連する専門知識を活かして、科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見極める力を修得していること。
- ・物理学を礎とする技術者・研究者として、技術革新に対して常に探求しつづける力を修得していること。

（数物科学科・応用計算科学コース）

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに、自然科学の本質を深く理解し、理工学と社会の動向を見通す力を修得しているこ

と。

- ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって、現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。
- ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって、生涯にわたって自らを成長させていくための力を修得していること。
- ・計算科学に関連する専門知識を活かして、自然や社会への洞察を深化させ、問題を分析し課題を見極める力を修得していること。
- ・数学、物理学、情報科学の視点から、さまざまな課題を数理的に解決する力を修得していること。

(物質創成化学科)

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに、自然科学の本質を深く理解し、理工学と社会の動向を見通す力を修得していること。
- ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって、現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。
- ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって、生涯にわたって自らを成長させていくための力を修得していること。
- ・有機化学、無機化学、分析化学及び物理化学の学習を基盤として、化学の知識と応用力を体系的に修得し、機能性物質の開発、環境調和を指向した機能性材料、リサイクル技術、省エネルギー・省資源技術の研究開発に貢献する力を修得していること。
- ・専門的知識を有し、問題の本質を化学の視点から分析し見極める力を修得していること。
- ・化学に関する専門知識・技能を活かして、科学・技術の発展に貢献していくことができる探求する力を修得していること。

(地球環境防災学科)

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに、自然科学の本質を深く理解し、理工学と社会の動向を見通す力を修得していること。
- ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって、現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。
- ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって、生涯にわたって自らを成長させていくための力を修得していること。
- ・地域とグローバルな観点から、地球環境問題や自然災害など日本と世界が直面する課題に対応できる力を修得していること。
- ・日本と世界が直面する地球環境や自然災害に関する課題に対して学びつづける力を修得していること。

(電子情報工学科)

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに、自然科学の本質を深く理解し、理工学と社会の動向を見通す力を修得していること。
- ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって、現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。
- ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって、生涯にわたって自らを成長させていくための力を修得していること。
- ・電子工学、情報工学、情報科学、並びにそれらの融合領域における専門知識を有し、社会の実現に貢献する電子情報分野の技術革新を支える力を修得していること。
- ・高度情報化社会の中で、科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見通す力を修得していること。

(機械科学科・知能システムコース)

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに、自然科学の本質を深く理解し、理工学と社会の動向を見通す力を修得していること。
- ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって、現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。
- ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって、生涯にわたって自らを成長させていくための力を修得していること。
- ・機械工学を基盤として、機械技術者・研究者の立場から科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見いだす力を修得していること。
- ・機械工学をとおして人類や社会が直面する諸課題を解決し、人類の福祉に貢献する具体的な方法を探求する力を修得していること。

(機械科学科・医用システムコース)

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに、自然科学の本質を深く理解し、理工学と社会の動向を見通す力を修得していること。
- ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって、現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。
- ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって、生涯にわたって自らを成長させていくための力を修得していること。
- ・機械工学と医用工学の知識を基盤として、人の健康を支える科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見通す力を修得していること。
- ・新産業分野として創出が加速される医用システム産業に対応することができる専門家として、人の健康を支える科学・技術、国際社会や地域社会の問題を解決する力を修得していること。

(自然エネルギー学科)

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに、自然科学の本質を深く理解し、理工学と社会の動向を見通す力を修得していること。
- ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって、現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。
- ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって、生涯にわたって自らを成長させていくための力を修得していること。
- ・エネルギー変換・貯蔵・利用過程・エネルギーシステム全般・環境に配慮した省エネルギー技術の基礎知識を身に付け、実践的・総合的かつグローバルな視点とローカルな視点から科学的に課題に対応する力を修得していること。
- ・さまざまなエネルギー技術とその基礎知識を活かして、国際社会や地域社会の問題を解決する力を修得していること。
- ・自然エネルギーをとおして人類の福祉に貢献する具体的な方法を学びつづける力を修得していること。

○適切な実施に係る取組の概要

各授業科目について、具体的な到達目標をシラバスに記載し学生に公表したうえで、「理工学部成績評価基準」に基づき成績評価を行い、理工学部学科代表者会議及び理工学部教授会の議を経て卒業を認定している。

【農学生命科学部】

○学位授与方針

農学生命科学部は、農学及び生命科学教育の専門的知識を修得し、国際化の中で刻

一刻と変化する農業・食産業分野，生命科学分野における技術革新に対応し活躍できる能力および高い生命倫理，職業倫理を併せ持つ専門技術者として以下の力を身に付けたものに対して，学士（農学生命科学）の学位を授与する。

（生物学科）

- ・農学および生命科学の各分野の専門性を身に付け，原理や理論，実践に基づいて自然や社会を見通す力
- ・学修した知識を具体的に活用し，専門技術者として地域社会や国際社会における問題を解決する力
- ・創造性と主体性をもって生涯にわたって自らを成長させ学び続ける力
- ・農学の専門技術者・研究者・理科教育・環境行政・農林水産業の各分野で発展を担う力
- ・生物およびそれを取りまく自然環境について課題を見つけ，その解決に向けて探求を進め，その成果をあらわすことができる実践的な能力

（分子生命科学科）

- ・農学および生命科学の各分野の専門性を身に付け，原理や理論，実践に基づいて自然や社会を見通す力
- ・学修した知識を具体的に活用し，専門技術者として地域社会や国際社会における問題を解決する力
- ・創造性と主体性をもって生涯にわたって自らを成長させ学び続ける力
- ・生物の潜在能力を応用し，バイオマス等の次世代の有用資源を開発しようとする力
- ・生物学・分子生物学・生化学および化学に関する各分野の学修をとおして，生命現象全般を見通す力
- ・ライフサイエンスにおいて必要な課題探求・問題解決能力

（食料資源学科）

- ・農学および生命科学の各分野の専門性を身に付け，原理や理論，実践に基づいて自然や社会を見通す力
- ・学修した知識を具体的に活用し，専門技術者として地域社会や国際社会における問題を解決する力
- ・創造性と主体性をもって生涯にわたって自らを成長させ学び続ける力
- ・バイオテクノロジー，食品科学，作物生産環境に関する学修をとおして，食料資源全般を見通す力
- ・バイオテクノロジーによる食料資源の開発や改良，食品の機能性評価や食の安全に関わる技術，食料資源の生産に関わる技術や環境等の諸課題を解決する力
- ・習得した食料資源に関する知識や技術を社会に役立てるために，粘り強く学び・研究し続ける力

（国際園芸農学科）

- ・農学および生命科学の各分野の専門性を身に付け，原理や理論，実践に基づいて自然や社会を見通す力
- ・学修した知識を具体的に活用し，専門技術者として地域社会や国際社会における問題を解決する力
- ・創造性と主体性をもって生涯にわたって自らを成長させ学び続ける力
- ・果樹学から作物学・蔬菜学・花卉学・畜産学及び生産機械学までの農業生産領域と食と農業をめぐる社会的経済的課題を総合的・実学的に把握し，行動する能力
- ・農業生産の効率化のための農業経営や国内外の農畜産物の流通機構の改善に関する実際の・応用的な素養と能力

（地域環境工学科）

- ・農学および生命科学の各分野の専門性を身に付け，原理や理論，実践に基づいて自然や社会を見通す力

- ・学修した知識を具体的に活用し、専門技術者として地域社会や国際社会における問題を解決する力
- ・創造性と主体性をもって生涯にわたって自らを成長させ学び続ける力
- ・社会的責任を自覚し、自主的継続的に学修し、多様な人々と協働し、国内外の地域社会に参画していこうとする行動力
- ・地域環境工学教育をとおして、創造性と深い洞察力を兼ね備え、自主的に問題を解決する能力、論理的に思考する能力
- ・水・土・農業土木関連施設や農村・山間地に関わる総合的な工学知識

○適切な実施に係る取組の概要

各授業科目について、具体的な到達目標をシラバスに記載し学生に公表したうえで、農学生命科学部で定めた成績評価基準に基づき成績評価を行い、農学生命科学部学科長会議及び農学生命科学部教授会の議を経て卒業を認定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.hirosaki-u.ac.jp/policy/policy.html>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	弘前大学
設置者名	国立大学法人弘前大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.hirosaki-u.ac.jp/wordpress_data/soshiki/zaimu/r3/r3_1.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.hirosaki-u.ac.jp/wordpress_data/soshiki/zaimu/r3/r3_1.pdf
財産目録	-
事業報告書	https://www.hirosaki-u.ac.jp/wordpress_data/soshiki/zaimu/r3/r3_2.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.hirosaki-u.ac.jp/wordpress_data/soshiki/zaimu/r3/r3_4.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 対象年度:)
公表方法:
中長期計画(名称: 国立大学法人弘前大学 第4期中期目標・中期計画 対象年度: 令和4年度～令和9年度)
公表方法: https://www.hirosaki-u.ac.jp/info/plan/mediumterm/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.hirosaki-u.ac.jp/info/evaluation/jikotenken/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.hirosaki-u.ac.jp/info/evaluation/kanbetsu/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人文社会科学部
教育研究上の目的 (公表方法 https://www.hirosaki-u.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000221.htm) (概要) 人文社会科学部は、多元的な文化理解と多様性認識、地域文化を含む自国の文化の創造力と発信力の養成に力を入れつつ、地域課題を含む現実の課題の解決に重点をおいた実践型教育を提供することで、地域社会の活性化に寄与する人材を育成することを目的とする ○各課程の教育研究上の目的 (1) 文化創生課程 人文科学分野の専門的知識・技能を学びつつ、国内外の歴史・文化を理解する力、地域の伝統文化を含む自国の文化を創造し発信する力を身につけ、地域の文化振興や地域社会のグローバル化の推進等に寄与する人材を育成する。 (2) 社会経営課程 社会科学分野の専門的知識・技能を学びつつ、自治体等の政策立案、民間企業の経営戦略、地域住民との協働などの場で課題発見や課題解決のための力を主体的に発揮し、社会に寄与する人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/2/2020/03/02DPH00.pdf) (概要) 人文社会科学部では、カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程に沿って、人文社会科学分野の諸領域における専門的知識・技能を修得するとともに、高い倫理観と強い社会的使命感をもって、修得した知識・技能等を地域社会の発展のために活用できる人に対して、学士（人文社会科学）の学位を授与します。具体的には、つぎの目標に達していることが学位取得の要件となります。 ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに、人間の本質を深く理解しつつ、社会の動向を見通す力を修得していること。 ・専門的知識・技能を実践の場に活かすことによって、現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。 ・歴史文化に対する深い認識と人間社会に対する広い視野をもって、生涯にわたって自分自身を成長させていくための探究力を修得していること。 各課程・コースでは、人文社会科学部のディプロマ・ポリシーに加え、課程・コース別に、以下の能力を修得していることを求めます。 【文化創生課程・文化資源学コース】 ・有形無形の文化資源の学術的価値を見極める力 ・文化資源に関する専門的知識・技能を活用することで、地域の文化を振興し、人類共通の遺産を次世代に継承する実践力 【文化創生課程・多文化共生コース】 ・英語をはじめとする外国語の高い運用能力、歴史学や国際地域に関する専門的知識を有し、グローバル化の進展に伴って大きく変化する時代の動向を見通す力 ・英語をはじめとする外国語の高い運用能力、歴史学、国際地域に関する専門的知識を活

用することで、地域社会のグローバル化に対応することのできる実践力

【社会経営課程・経済法律コース】

- ・経済学と法学の専門的知識・技能を有し、経済・金融・雇用・生活等にかかわる諸問題の状況を的確に理解できる力
- ・経済学と法学の専門的知識・技能を活用することで、地方自治体等が抱える課題を創造的で公正かつ適切に解決する力

【社会経営課程・企業戦略コース】

- ・経営学と会計学の専門的知識・技能を有し、新産業の創出やイノベーション等の諸課題を的確に分析し見通す力
- ・経営学と会計学の専門的知識・技能を活用することで、地域企業や地域産業の育成と発展に貢献することのできる実践力

【社会経営課程・地域行動コース】

- ・地域社会に関する専門的知識と調査技能を有し、社会現象や人々の行動を把握する力
- ・専門的知識・技能を活用することで、地域社会や人々の課題を発見・分析し、地域住民と協働して課題解決にむかう実践力

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/2/2020/03/02CPH00.pdf>）

（概要）

1. 教育課程の編成・実施等

人文社会科学部では、多元的な文化理解と現代社会に対する多面的理解を重視したカリキュラムを提供するという観点から、教養教育と専門教育の教育課程の編成・実施方針をつぎのように定める。

（1）教養教育については、以下の学習を実施する。

- ・幅広い教養と外国語の運用能力をしっかりと身に付け、世界情勢や地域課題を的確に見極める力を養う。【教養教育科目：英語，グローバル科目，ローカル科目】
- ・基礎ゼミナール等の実践的学習をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、人間や社会に共通する課題を発見・解決する力を養う。【教養教育科目：スタディスキル導入科目，学部越境型地域志向科目】

（2）専門教育については、以下の学習を実施する。

- ・人文社会科学分野の専門的知識・技能を獲得するとともに、英語をはじめとする外国語の運用能力を実践的な語学教育をとおして身に付けることで、人間文化を多元的に理解する力、現代社会の複雑さを的確に見通す力を獲得させる。【専門教育科目：学部基本科目，コア科目】
- ・実習・演習や卒業研究等を通じて、地域の優れた伝統文化を含む自国の文化を創造・発信する力、地域課題を含めて、現実社会が直面する諸課題の解決に役立つ応用力・実践力を獲得させる。【専門教育科目：基礎科目，発展科目，応用科目，ゼミナール，卒業研究・特定課題研究】

（3）各課程・コースについては、以下の学習を実施する。

【文化創生課程】

- ・文化創生課程では、人文科学分野の専門的知識・技能を学びつつ、国内外の歴史文化の価値を正しく評価する力、自国の文化を創造し発信する力を身に付けることを重視した教育を提供するという観点に立って、コースごとの教育課程の編成・実施方針をつぎのように定める。

【文化創生課程・文化資源学コース】

- ・有形無形の文化資源を適切に取り扱う専門的能力・技能を習得させることによって、その学術的価値を的確に見極める力を養う。【学部基本科目、文化資源学コースコア科目】
- ・文化資源の評価判定や保存等に関する専門的知識・技能を新たな文化資源の発掘等に役立てていくための実践力を養う。【文化資源学コース基礎科目、発展科目】
- ・多様な文化資源を生み出した人類の叡智と精神を理解し、それらを人類共通の文化遺産として次世代に伝えていくことを社会的使命として、生涯にわたって実践していくことのできる探究力を身に付けさせる。【文化資源学コース応用科目、ゼミナール、卒業研究・特定課題研究】

【文化創生課程・多文化共生コース】

- ・多文化共生の価値観に通曉した人間性の涵養によって、グローバル化が世界的規模で進展している時代の動向を見通す力を養う。【学部基本科目、多文化共生コースコア科目】
- ・国内外の歴史文化を深く理解しつつ、世界情勢を的確に見極めることによって、現代世界が直面する諸課題をグローバルな視点に立って解決していく力を養う。【多文化共生コース基礎科目、発展科目】
- ・グローバル化の世界的進展という状況の中で、多元的な価値観と多様性認識に立った自己理解を生涯にわたって深めていくための探究力を身に付けさせる。【多文化共生コース応用科目、ゼミナール、卒業研究・特定課題研究】

【社会経営課程】

- ・社会経営課程では、社会科学分野の専門的知識・技能を学びつつ、現代社会が直面するさまざまな課題を解決し、より良い社会を構築することのできる応用力を重視した教育を提供するという観点に立って、コースごとの教育課程の編成・実施方針をつぎのように定める。

【社会経営課程・経済法律コース】

- ・経済学と法学の専門的知識・技能をもとに、経済・金融・雇用・生活等に関わる諸問題の状況を的確に見極めることのできる能力を養う。【学部基本科目、経済法律コースコア科目】
- ・現代経済を広い視野に立って認識するとともに、法を体系的に理解するための基礎訓練をとおして、創造的で公正かつ適切な問題解決力を身に付けさせる。【経済法律コース基礎科目、発展科目】
- ・経済・法律上の諸問題を解決するための施策等を生涯にわたって積極的に探究していく力を獲得させる。【経済法律コース応用科目、ゼミナール、卒業研究・特定課題研究】

【社会経営課程・企業戦略コース】

- ・経営学と会計学の専門的知識・技能をもとに、新ビジネス・新産業の創出やイノベーション等に関わる諸課題を的確に分析し見通す力を養う。【学部基本科目、企業戦略コースコア科目】
- ・地域企業の発展や地域産業の活性化に貢献しうる力を身に付けるために、課題発見力・課題解決力・企画提案力・コミュニケーション力を高めさせる。【企業戦略コース基礎科目、発展科目】
- ・企業経営の諸課題を解決するための実効的な方策等を生涯にわたって積極的に探究していく力を獲得させる。【企業戦略コース応用科目、ゼミナール、卒業研究・特定課題研究】

【社会経営課程・地域行動コース】

- ・社会学・人類学・統計学・情報科学等の専門的知識・技能をもとに、地域社会の成り立ちやあり方、地域住民の心理・行動等を的確に分析し見通す力を養う。【学部基本科目、地域行動コースコア科目】

- ・フィールドワークと課題解決型学習等をとおして習得した専門的知見を地域課題の発見・分析・解決に役立てるための実践力を養う。【地域行動コース基科目、発展科目】
- ・地域社会が直面する諸課題を解決するための具体的な手法等を生涯にわたって積極的に探究していく力を獲得させる。【地域行動コース応用科目、ゼミナール、卒業研究・特定課題研究】

(4) カリキュラムの年次編成

1年次には、専門学習に取り組むための基本姿勢を身に付け、広い視野に立って学問的関心を養うことを目的として、主に教養教育科目と学部基本科目を履修する。1年次後半からは、各専門領域に関する講義等をとおして、各課程・各コースのカリキュラムにもとづく専門学習に向けた理解を深めていく。

2年次から3年次にかけては、コースごとに設定されているカリキュラムの履修をとおして、自分自身の専門分野の知識・技能を深めていく。実習・演習等の実践的科目をとおして、研究者倫理も身に付ける。キャリア科目などの高年次教養教育科目をとおして、自分自身の人生や社会との関わりも考えていく。

4年次には、これまで学んできたことを「卒業研究」（または「特定課題研究」）という自分自身の研究テーマに結実させていくことによって、卒業後の進路を見すえた専門的知識・技能の定着を図る。

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともにCAP制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促す。
- (2) 各コースの履修体系図によりディプロマ・ポリシーと各授業科目の関係を明示して効果的な学習を促し、見通す力と解決する力を涵養する教育を行う。
- (3) 自ら課題を発見し、その解決に向けて探究を進め、成果を発表するための実践的な能力を身に付けることのできる、学生主体の能動的な授業を積極的に取り入れる。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPAを用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価する。
- (2) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細と合わせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/4/2022/11/jinbun_ap_2022.pdf）

（概要）

1) 人文社会科学部が求める学生像

人文社会科学部では、多元的な文化理解と現代社会に対する多面的理解を重視したカリキュラムを提供することによって、地域文化を含む自国の文化を創造し発信する力、地域課題を含めて現代社会が直面している諸課題を発見・分析・解決する力を養い、社会に貢献する人材の育成を目的としています。

そのような人材の育成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- ・人文科学と社会科学の諸領域（考古学、歴史学、文学、哲学、法学、経済学、経営学、社会学等）に関わる専門的知識・技能を習得するための基礎学力
- ・学んだ専門的知識・技能を文化の振興や社会の発展に役立てるための行動力
- ・人間文化の発展に貢献することや現代社会が直面する複雑な問題を解決することへの意

欲

また、人文社会科学部の各課程は、それぞれ次のような学生を求めます。

【文化創生課程】

- ・地域社会の発展のために、地域の文化振興や地域のグローバル化の推進等の活動を担っていけるような行動力のある人
- ・国内外の有形無形の文化を人類共通の遺産として次世代に伝えていくこと、深い歴史認識に立って世界情勢を的確に見極めることに意欲的である人

【社会経営課程】

- ・地域社会の発展のために、自治体の政策立案や地域産業の育成、地域住民との協働による問題解決等に貢献していくことができるような行動力のある人
- ・少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等、現代社会が直面する諸課題を解決することに意欲的である人

2) 入学志願者に求める学習の取組

- ・教科・科目の学習をととして、歴史文化や社会に関する基礎知識をはじめ、論理的思考力・情報処理能力、コミュニケーション能力等を身に付けておく必要があります。
- ・グループ学習等の体験型学習をととして、自分自身の考えを積極的に発信していく力や学習に主体的に参加する姿勢を身に付けておく必要があります。
- ・物事を多面的に理解し、複雑化した問題を的確に分析する力を養うために、国内外のさまざまな問題に広く関心を持つ姿勢や、多様な分野の学習に積極的に取り組む姿勢を身に付けておく必要があります。

3) 入学者選抜の基本方針

人文社会科学部では、人文社会科学分野の人材として育つにふさわしい学力・行動力・意欲を有する学生を選抜する目的で、多面的・総合的な評価方法により、別表のとおり入学者を選考します。

【別表1】入学者選抜方法と重点評価項目

選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目		
			学力	行動力	意欲
一般選抜 (前期)	共通テスト	高等学校修了レベルの学習の達成度を評価するという観点から、左記の選抜方法に基づいて総合的に評価して選抜します。	◎	○	○
	個別学力検査				
	志望理由書				
	調査書				
一般選抜 (後期)	共通テスト	高等学校修了レベルの学習の成果を幅広く応用・展開し、さまざまな課題を多面的に把握し解決するための資質・能力を評価するという観点から、左記の選抜方法に基づいて総合的に評価して選抜します。	◎	○	○
	小論文				
	志望理由書				
	調査書				
総合型選抜Ⅰ	小論文	本学部のアドミッション・ポリシーを正しく理解した上で、本学部のカリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための資質・能力、適性、意欲・関心等を評価するという観点から、左記の選抜方法に基づいて総合的に評価して選抜します。	○	◎	◎
	個人面接				
	学習計画書				
	調査書				

注) 点数評価・段階評価する項目のうち、◎大きい比重、○小さい比重

【別表2】入学者選抜方法の内容と評価要素		
選抜方法	選抜区分	選抜内容と評価要素
小論文	一般・後期	人間の営みや現代社会が直面している課題等について、文献等の資料を提示し自分の考えを述べさせる。 資料が示していることを十分に理解しているか、設問に対して自分の考えを論理的に述べているか、日本語の文章表現として適切であるか等を判断基準として、「学力」を評価する。
	総合Ⅰ	一つのテーマについて論述させる。 設問に対して自分の考えを論理的に述べているか、日本語の文章表現として適切であるか等を判断基準として、「学力」を評価する。
個人面接	総合Ⅰ	自己PR、志望理由と入学後の学習計画、大学卒業後の進路等について口頭発表させ、発表内容に関する質疑応答を行う。 アドミッション・ポリシーを念頭に置いた志望課程への関心と意欲が高いか、大学入学後の学習計画と将来への見通しについては明確か、質疑応答が的確になされているか等を判断基準として、「学力」、「行動力」、「意欲」を評価する。
志望理由書	一般・前期	志望理由について、これまでの勉強やさまざまな活動をとおして得た経験を元に記述させる。
	一般・後期	専門分野に対する興味・関心などが高いか等を判断基準として、「意欲」を評価する。
学習計画書	総合Ⅰ	志望理由、入学後の学習計画と大学卒業後の進路等について、これまでの勉強やさまざまな活動をとおして得た経験を元に記述させる。 アドミッション・ポリシーを理解し自己PRができているか、志望理由が明確で学習計画は的確に立てられているか、将来の進路希望は明確か等を判断基準として、「学力」、「行動力」、「意欲」を評価する。
調査書	一般・前期	高等学校での科目の履修状況、教科外活動の状況、ボランティア活動・各種の資格等の取得等を判断基準として、「行動力」を評価する。
	一般・後期	
	総合Ⅰ	

※令和6年度選抜においては、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う措置により、選抜方法、評価要素等が、「入学者選抜の基本方針」と一部異なることがあります。

〈入試に係る取組・改善状況〉

- 令和5年度入試では、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う措置として、令和3年度及び4年度入試同様、調査書及び志望理由書の評価を実施しないことなど、出願書類の取扱いを変更した。
- 北海道の高等学校への広報活動や本学学生の就職支援の拠点を札幌市内に設けることの検討を行った。令和5年4月に「札幌サテライト」を設置し、これまでの活動の強化、北海道在住の本学卒業生とのネットワーク構築を進めることとしている。
- 高等学校の新学習指導要領の影響を受ける令和7年度入試改革に向け、前年度に引き続き県内の高校を直接訪問して、今後の進学傾向や高大連携事業への取組、入試対策等に関する情報収集等を行いながら検討を重ね、令和4年度中に実施教科・科目（配点を除く）を公表した。

学部等名 教育学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hirosaki-u.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000229.htm ）
（概要）

教育学部は、子どもの発育発達や能力に応じた主体的な学びを支援することのできる専門的知識・技能と実践的指導力を兼ね備え、学校現場や学校を取り巻く地域で活躍できる教員を養成することを目的とする。

○各課程の教育研究上の目的は次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 学校教育教員養成課程

学校での教科指導・道徳指導・特別活動指導・総合的な学習の指導・生徒指導・特別支援などを担当する教員として、必要な資質や能力を身に付け、深めていくことを目的とする。

(2) 養護教諭養成課程

子ども達の心身の健康を守り育てていく教員として、必要な資質や能力を身に付け、深めていくことを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/2/2020/03/02DPP00.pdf>）

（概要）

教育学部は、教育に関する専門力と実践力を有し、高い倫理性と絶えざる向上心を備えた「教育プロフェッショナル」として、自律的・協働的に教育に貢献し得る者に対して学士（教育学）の学位を授与します。具体的には次の力を有することが学位取得の要件となります。

【学校教育教員養成課程・初等中等教育専攻】

- ・教育学の専門的な知識や技能を修得し、教育現象を深く洞察できる力を修得していること。
- ・教育者としての倫理観や向上心を持ち、教育実践を主体的に推進できる力を修得していること。
- ・地域社会で活躍する教育者として、日々変化する教育課題の解決に貢献し続ける力を修得していること。
- ・各教科の専門的知識に基づき、小学校及び中学校において指導・実践する力を修得していること。
- ・時代とともに変化する教育課題に対応できる広い視野をもち、考え向き合っていく力を修得していること。

【学校教育教員養成課程・特別支援教育専攻】

- ・教育学の専門的な知識や技能を修得し、教育現象を深く洞察できる力を修得していること。
- ・教育者としての倫理観や向上心を持ち、教育実践を主体的に推進できる力を修得していること。
- ・地域社会で活躍する教育者として、日々変化する教育課題の解決に貢献し続ける力を修得していること。
- ・障害等の特別な教育的ニーズを教育、心理、病理などの多方面から理解し支援するための基礎的・専門的知識を修得していること。
- ・各教科の専門的知識及び特別支援教育に関する基礎的・専門的知識に基づき、教育現場で生かす実践的な力を修得していること。

【養護教諭養成課程】

- ・教育学の専門的な知識や技能を修得し、教育現象を深く洞察できる力を修得していること。
- ・教育者としての倫理観や向上心を持ち、教育実践を主体的に推進できる力を修得していること。
- ・地域社会で活躍する教育者として、日々変化する教育課題の解決に貢献し続ける力を修得していること。

得していること。 ・健康教育と健康管理によって、児童・生徒の発育発達を支援するために必要な専門的知識を修得していること。 ・養護実践学・保健医科学に関する基礎的・専門的知識に基づき、教育現場で生かす実践的な力を修得していること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/2/2020/03/02CPP00.pdf）
（概要） 教育学部は、学校等の教員に求められる専門力と実践力を育成するカリキュラムを提供するという観点から、教育課程の編成・実施方針をつぎのように定める。 1. 教育課程の編成・実施等 教育への知的好奇心と強い責任感を育むとともに、自律的な学習とチームでの学び合い・教え合いの習慣を確立し、教育者としての専門職的発達の基礎を築き成長していくため、各課程・専攻において、以下の学習を実施する。 【学校教育教員養成課程・初等中等教育専攻】 ・見通す力：学生に諸学問の基礎を修める機会を提供することで、教育が果たすべき社会的使命とは何か、その使命を果たすためにどのような教育実践が求められるのか、多角的に検討できる力を養う。（教養教育科目） ・解決していく力：学生に地域社会の教育実践の現実に触れる機会を提供することで学生の教育問題への想像力や感受性を養い、学生が一人の教育者として、そして教育の実践共同体の一員として教育問題の解決に挑戦できる力を養う。（教養教育科目・学部共通科目） ・働きかける力：学生に、教育の目的と制度、内容、方法、児童・生徒理解といった教育実践に関する知識・技能等を深く理解させることにより、自律的に児童・生徒に働きかけていくための専門力を養う。（自己形成科目群：基礎科目・教職科目） ・反応を読みとり働きかけ返す力：学生に、学校現場を経験させ、自らの働きかけに対する児童・生徒の反応を的確に読みとり、それに応じた適切な働きかけを考え実践し、児童・生徒等の発達を促すことができるような実践力を養う。（学校臨床科目群：教育実習関連科目） ・自律的発展力：学生に、学校現場体験の省察により、自らの専門力・実践力両面における到達点と課題を明らかにさせ、さらなる知識・技能等の向上を図り、よりよい教員を目指して成長していく力を養う。（教員発展科目群：発展科目・サブコース科目） ・小学校コース、中学校コースから成り立ち、小・中学校等の教員として、確かな「専門力」と「実践力」を兼ね備えた教員を養成する。また「地域協働型教員養成プログラム」により、地域の教育課題に対応できる教員の養成を行うとともに、コースの枠を超えた相互連携教育により小中一貫教育へ対応できる能力を養う。（学校臨床科目群：教育実習関連科目教員発展科目群：発展科目・サブコース科目） 【学校教育教員養成課程・特別支援教育専攻】 ・見通す力：学生に諸学問の基礎を修める機会を提供することで、教育が果たすべき社会的使命とは何か、その使命を果たすためにどのような教育実践が求められるのか、多角的に検討できる力を養う。（教養教育科目） ・解決していく力：学生に地域社会の教育実践の現実に触れる機会を提供することで学生の教育問題への想像力や感受性を養い、学生が一人の教育者として、そして教育の実践共同体の一員として教育問題の解決に挑戦できる力を養う。（教養教育科目・学部共通科目） ・働きかける力：学生に、教育の目的と制度、内容、方法、児童・生徒理解といった教育実践に関する知識・技能等を深く理解させることにより、自律的に児童・生徒に働きか

けていくための専門力を養う。(自己形成科目群：基礎科目・専攻基礎科目・教職科目)

- ・反応を読みとり働きかけ返す力：学生に、学校現場を経験させ、自らの働きかけに対する児童・生徒の反応を的確に読みとり、それに応じた適切な働きかけを考え実践し、児童・生徒等の発達を促すことができるような実践力を養う。(学校臨床科目群：教育実習関連科目)
- ・自律的発展力：学生に、学校現場体験の省察により、自らの専門力・実践力両面における到達点と課題を明らかにさせ、さらなる知識・技能等の向上を図り、よりよい教員を目指して成長していく力を養う。(教員発展科目群：専攻発展科目)
- ・特別支援教育に関する深い知識と技術を有し、特別支援学校や特別支援学級、通常学級など特別支援教育の現場で活躍することができる能力を養う。(専攻発展科目)

【養護教諭養成課程】

- ・見通す力：学生に諸学問の基礎を修める機会を提供することで、教育が果たすべき社会的使命とは何か、その使命を果たすためにどのような教育実践が求められるのか、多角的に検討できる力を養う。(教養教育科目)
- ・解決していく力：学生に地域社会の教育実践の現実に触れる機会を提供することで学生の教育問題への想像力や感受性を養い、学生が一人の教育者として、そして教育の実践共同体の一員として教育問題の解決に挑戦できる力を養う。(教養教育科目・学部共通科目)
- ・働きかける力：学生に、教育の目的と制度、内容、方法、児童・生徒理解といった教育実践に関する知識・技能等を深く理解させることにより、自律的に児童・生徒に働きかけていくための専門力を養う。(自己形成科目群：課程基礎科目・教職科目)
- ・反応を読みとり働きかけ返す力：学生に、学校現場を経験させ、自らの働きかけに対する児童・生徒の反応を的確に読みとり、それに応じた適切な働きかけを考え実践し、児童・生徒等の発達を促すことができるような実践力を養う。(学校臨床科目群：教育実習関連科目)
- ・自律的発展力：学生に、学校現場体験の省察により、自らの専門力・実践力両面における到達点と課題を明らかにさせ、さらなる知識・技能等の向上を図り、よりよい教員を目指して成長していく力を養う。(教員発展科目群：課程発展科目)
- ・子どもたちの心身の健康を守り育てていくため、必要な資質や能力を身に付け、深めていける能力を養う。(教員発展科目群：課程発展科目)
- ・児童・生徒、教職員他、さまざまな人々とコミュニケーションをとりながら、養護実践学的・保健医科学的思考に基づき、子ども自らが心身の健康問題を解決していけるように促せる力を養う。(学校臨床科目群：教育実習関連科目)

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに CAP 制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促す。
- (2) 各コースの履修体系図によりディプロマ・ポリシーと各授業科目の関係を明示して効果的な学習を促し、見通す力と解決する力を涵養する教育を行う。
- (3) 自ら課題を発見し、その解決に向けて探究を進め、成果を発表するための実践的な能力を身に付けることのできる、学生主体の能動的な授業を積極的に取り入れる。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPA を用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価する。
- (2) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細と合わせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/4/2022/11/kyoiku_ap_2022.pdf）

（概要）

1）教育学部が求める学生像

教育学部では、子どもの発育発達や能力に応じた主体的な学びを支援することのできる、学校現場で活躍できる専門力と実践力を兼ね備えた教員を養成することを目的としています。この観点から「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

教育学部では、子どもの発育発達や能力に応じた主体的な学びを支援することのできる、学校現場で活躍できる専門力と実践力を兼ね備えた教員を養成することを目的としています。この観点から「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- ・将来、教員になるための素養と、入学後に修める教養教育と専門教育の基礎となる学力
- ・自立した個人として、または多様な人々と協働して、地域社会における教育に参画していこうとする行動力・教育者を目指して知的・人格的に成長していこうとする意欲

また、教育学部の各課程・専攻は、それぞれ次のような学生を求めます。

【学校教育教員養成課程初等中等教育専攻】

- ・小・中学校等の教員として必要な専門力・実践力を身に付けるために、自律的・協働的な態度で学習活動に取り組む行動力のある人
- ・将来、小・中学校等の教員として、学校教育に貢献したいという強い意志と、明確な目標を持っている人

【学校教育教員養成課程特別支援教育専攻】

- ・障害等の特別な教育的ニーズを教育、心理、病理などの多方面から理解し支援するために、自律的・協働的な態度で学習活動に取り組む行動力のある人
- ・将来、特別支援学校等の教員として、特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の自立に向けた活動に関わることを強く希望する人

【養護教諭養成課程】

- ・養護教諭として必要な専門力・実践力を身に付けるために、自律的・協働的な態度で学習活動に取り組む行動力のある人
- ・子どもの健康に高い関心を持ち、将来、養護教諭として学校教育に貢献するという強い意志を持つ人

2）入学志願者に求める学習の取組

- ・高等学校で履修する教科・科目の基礎的理解だけでなく、取得する教員免許に則した深い学び、課題の把握とその解決に向けたプロセスをわかりやすく表現や説明できる力を習得しておくことが必要です。
- ・将来、教員として同僚や児童・生徒、保護者とのコミュニケーションを円滑に育めるように、課外活動やボランティア活動など、多様な人々と積極的に関わっていく主体的な経験が望まれます。
- ・日頃から社会情勢や教育問題に対して関心を持ち、困難な問題にも安易にあきらめることなく乗り越えるための努力を惜しまない姿勢と、自己を高める継続的な向上心を

身に付けておく必要があります。

3) 入学者選抜の基本方針

教育学部では学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的な評価方法により別表のとおり入学者を選考します。

【別表 1】入学者選抜方法と重点評価項目

選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目		
			学力	行動力	意欲
一般選抜 (前期)	小学校コース，中学校コース（音楽専修・美術専修・保健体育専修を除く），特別支援教育専攻，養護教諭養成課程				
	共通テスト	高等学校修了レベルの学習の達成度を評価すると共に，教員としての適性・資質・能力，教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心进行评估するという観点から，左記の方法により総合評価して選抜します	◎	○	○
	個別学力検査				
	個人面接				
一般選抜 (後期)	小学校コース				
	共通テスト	高等学校修了レベルの学習の達成度を評価すると共に，小学校教員としての資質・能力・適性・教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心进行评估するという観点から，左記の方法により総合評価して選抜します。	◎	○	○
	個人面接				
総合型選抜 I	中学校コース（音楽専修・美術専修・保健体育専修）				
	実技試験	アドミッション・ポリシーを正しく理解したうえで，本学部のカリキュラムに基づく学習を主体的に進めるのに必要な，音楽・美術・保健体育の教員としての基礎的な学力（技能および知識）と資質・適性，教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心进行评估するという観点から，左記の方法により総合評価して選抜します。	◎	○	○
	個人面接				
	出願書類（調査書）				
総合型選抜 II	小学校コース，特別支援教育専攻，養護教諭養成課程				
	共通テスト	アドミッション・ポリシーを正しく理解したうえで，本学部のカリキュラムに基づく学習を主体的に進めるのに必要な，教員としての適性・資質・能力，教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心进行评估すると共に，高等学校修了レベルの学習の達成度を評価するという観点から，左記の方法により総合評価して選抜します。	◎	◎	◎
	小論文				
	小学校コースのみ				
	集団討論				
	個人面接				
	出願書類（調査書・志望理由書）				

注) 点数評価・段階評価する項目のうち，◎大きい比重，○小さい比重

注) 一般選抜では，調査書は面接試験の参考とする。

注) 総合型選抜 I の保健体育専修では，スポーツ競技歴等が分かる資料を面接試験の参考とする。

【別表 2】入学者選抜方法の内容と評価要素

選抜方法	選抜区分	選抜内容と評価要素
実技試験	総合 I	中学校コース（音楽専修・美術専修・保健体育専修） 事前に提示した課題または運動種目について実技試験を行う。 基本的な能力・技術等を把握し，音楽・美術・保健体育の教員として必要な「学力」进行评估する。 音楽専修においては，演奏楽曲に関する知識等に関する口頭試問も含む
小論文	総合 II	小学校コース

		広い意味での教育に関する課題について自身の考えを記述させる。 ①内容（出題の意図を的確にとらえ、自分なりの考えを明確に主張しているか等），②表現（文章の論理構成，適切な日本語，文字の表記，字数の過不足）により，「学力」と「意欲」を評価する。
集団討論	総合Ⅱ	小学校コース，特別支援教育専攻，養護教諭養成課程 与えられたテーマについてグループで討論を行う。 討論をととして，①話し方・聞き方等のコミュニケーション能力，②発言内容，③教員としての適性等を把握し「学力」「行動力」「意欲」を評価する。
個人面接	一般・前期	質疑応答等をととして，①自己表現能力，②教職への目的意識，③教員としての適性・資質・能力，④教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心等を把握し「行動力」と「意欲」を評価する。 総合Ⅰの美術専修及び保健体育専修においては，それぞれ美術と保健体育に関する知識を問う口頭試問も行い，「学力」も評価する。
	一般・後期	
	総合Ⅰ	
	総合Ⅱ	
調査書	総合Ⅰ	高等学校での教科外活動の状況，ボランティア活動・プロジェクト活動など校内外での活動，各種の資格・免許取得などにより，主に「行動力」を評価する。
	総合Ⅱ	
志望理由書	総合Ⅱ	小学校コース，特別支援教育専攻，養護教諭養成課程 志望理由や活動実績等の内容から，①自己表現能力，②教職への目的意識，③教員としての適性・資質・能力，④教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心等を把握し，主に「意欲」を評価する。

※令和6年度選抜においては，新型コロナウイルス感染症の影響に伴う措置により，選抜方法，評価要素等が，「入学者選抜の基本方針」と一部異なることがあります。

〈入試に係る取組・改善状況〉

- 令和5年度入試では，新型コロナウイルス感染症の影響に伴う措置として，令和3年度及び4年度入試同様，調査書及び志望理由書の評価を実施しないことなど，出願書類の取扱いを変更した。
- 北海道の高等学校への広報活動や本学学生の就職支援の拠点を札幌市内に設けることの検討を行った。令和5年4月に「札幌サテライト」を設置し，これまでの活動の強化，北海道在住の本学卒業生とのネットワーク構築を進めることとしている。
- 高等学校の新学習指導要領の影響を受ける令和7年度入試改革に向け，前年度に引き続き県内の高校を直接訪問して，今後の進学傾向や高大連携事業への取組，入試対策等に関する情報収集等を行いながら検討を重ね，令和4年度中に実施教科・科目（配点を除く）を公表した。

学部等名 医学部医学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hirosaki-u.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000240.htm ）
（概要） 医学部は，高度な知識及び技術と科学的素養を身に付け，豊かな人間性をもって医学・医療に貢献する人材の育成を目的とする。 ○医学科における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的は次の各号に掲げるとおりとする。 （1）豊かな人間性と高度の医学知識に富み，広い視野と柔軟な思考力をもって社会的役割を的確に果たすことができる医師及び医学研究者を養成する。

(2) 常に進歩を続ける医学を効果的に教育するためのカリキュラムを整備し、具体的な到達目標を明示することによって、学生が自主的に学習できるような教育を行う。 (3) 明確な目的意識と使命感を持った医師及び医学研究者を養成するために、学生が深く真理を探究し、人間性と社会性を高めることのできる教育を行う。 (4) 国際水準の基礎的、かつ、応用的な医学研究を推進するとともに、高度で先端的な医療を地域社会と連携して実践する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/2/2020/03/02DPM01.pdf）
（概要） 医学部医学科では、カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程に沿って医学的専門知識と技能を習得するとともに、人間の尊厳を希求し、医学の発展の一翼を担うために、求められる社会的役割を的確に果たすことができる三つの素養を身に付けたものに対して、学士（医学）の学位を授与します。具体的には、つぎの目標に達していることが学位授与の条件となります。 ・豊かな人間性と高度な医学の専門知識を身に付け、人間的・科学的観点から社会の要請を見通す力を身に付けていること。 ・広い視野と柔軟な思考力を基盤に、医療・医学の問題を解決していく実践的な力を身に付けていること。 ・専門性を生かした国際基準の基礎的かつ、応用的な医学・医療を常に学修し、生涯にわたり自らを成長させ続ける力を身に付けていること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/2/2020/03/02CPM01.pdf）
（概要） 医学部医学科は、国際認証に相応しい医学教育に基づき、学生の知性ならびに人間性・社会性を育むカリキュラムを提供するという観点から、教育課程の編成・実施方針を次のように定めます。 1. 教育課程の編成・実施等 基本的な臨床能力及び基礎的な医学研究能力を備え、生涯にわたり医療、教育、保健・福祉活動を通じて社会に貢献し、医学の発展に寄与することができる人材を養成することを目指し、以下のような学習を実施します。 ・学生に国際認証に対応した医学的専門知識と技能を体系的に教授することで、医療・医学への洞察を深化させる力を養う。 ・専門基礎科目により、学生に人類の叡智たる諸学問の構造を俯瞰する機会を提供することで、複眼的思考および多元的価値観に立脚した省察を促す。これにより、高度先端医療や地域医療が抱える複雑な問題の本質を見通す力を養う。 ・専門科目の演習・実習科目により、学生に高度先端医療や地域医療の実情や問題の複雑さに触れる機会を提供する。これにより、学生が個人およびチームとして問題の解決に挑戦できる力を養う。 ・専門科目のコア科目により、学生に医学的専門知識と技能を医療・医学の問題解決に応用したり、高度な学識を活かして学術的問題の解決に取り組んだりする機会を提供する。これに加えて各専門領域の深い見識と医療倫理・医学倫理も、実践をとおして培う。 ・診療参加型実習（臨床実習Ⅰ・Ⅱ）を主体に、学生が医療現場の一員として充実した大学生活を送るとともに、より良い社会の実現に貢献していくことができるように、学生の探究の習慣を確立させる。 2. 教育・学習方法

(1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促す。卒業時に修得しておくべき能力（卒業時コンピテンシー）が実践できるように各学年のアウトカムを作成して、カリキュラムを構築する。 (2) 主体的に学び続け、見通す力と解決する力を涵養する教育を行う。 (3) 自ら課題を見出し、その解決に向けて探究を進め、成果を表現する実践的な能力を身に付けさせるため、学生が主体となる能動的な授業も取り入れる。 3. 学習成果の評価 (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPAを用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価する。 (2) 知識、技能及び態度を組み合わせた多面的な評価により、学習成果を評価する。 (3) 評価の方法には、総括的評価に加えて、各学年のアウトカムに対する形成的評価が含まれる。																				
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/4/2022/11/igaku_ap_2022.pdf）																				
（概要） 1) 医学部医学科が求める学生像 医学部医学科では、豊かな人間性と高度の医学知識に富み、広い視野と柔軟な思考力をもって社会的役割を的確に果たすことができる医師及び医学研究者の養成を目的としています。 そのような人材の養成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。 ・医学教育を受けるに十分な素養で、入学後に修める教養教育と専門教育の基礎となる学力 ・他人を思いやるやさしさと社会性を持ちながら、高度で先端的な医療を地域社会と連携しながら実践してゆく行動力 ・生涯にわたり医師として医療・医学に貢献したいという明確な目的を持ち、何事にも前向きに取り組む、知的・人格的に成長していこうとする意欲 2) 入学志願者に求める学習の取組 ・医学を修めるために、理系科目だけでなく、英語や文系科目もしっかりと履修し、応用力を伴った総合的学力を身に付けておくことが必要です。 ・将来、さまざまな医療職と連携し、多様なニーズに対応できる医療を実践するためには、コミュニケーション能力と協調性を身に付けておくことが必要です。 ・医学・医療を取り巻く社会問題や地域の動向に関心を持ち、自ら積極的に学ぶ姿勢を身に付けておくことが必要です。 3) 入学者選抜の基本方針 医学部医学科では学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的な評価方法により別表のとおり入学者を選考します。 【別表1】入学者選抜方法と重点評価項目 <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">選抜区分</th><th rowspan="2">選抜方法</th><th rowspan="2">目的と概要</th><th colspan="3">重点評価項目</th></tr> <tr> <th>学力</th><th>行動力</th><th>意欲</th></tr> <tr> <td>一般選抜</td><td>共通テスト</td><td>高等学校卒業レベルの学習の成果を幅広く応用・</td><td>◎</td><td>○</td><td>○</td></tr> </table>						選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目			学力	行動力	意欲	一般選抜	共通テスト	高等学校卒業レベルの学習の成果を幅広く応用・	◎	○	○
選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目																	
			学力	行動力	意欲															
一般選抜	共通テスト	高等学校卒業レベルの学習の成果を幅広く応用・	◎	○	○															

(前期)	総合問題	展開し、さまざまな課題を多面的に把握し解決するための資質・能力を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。			
	個人面接				
総合型選抜Ⅱ	共通テスト	本学科のカリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための資質・能力、適性、意欲・関心等を評価する観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	○	◎	◎
	ケーススタディの自学自習				
	ワークショップ				
	個人面接				
学士編入学 (第2年次)	TOEFL	修業年限4年以上の大学卒業レベルの学習の達成度及びさまざまな課題を多面的に把握し解決するための資質・能力を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	◎	◎	○
	基礎自然科学・数学				
	個人面接				

注) 配点により評価する項目のうち、◎大きい比重、○小さい比重

注) 一般選抜(前期)及び総合型選抜Ⅱの個人面接では、調査書及び志望理由書を参考資料とする。

注) 学士編入学(第2年次)の個人面接では、志望理由書を参考資料とする。

【別表2】入学者選抜方法の内容と評価要素

選抜方法	選抜区分	選抜内容と評価要素
総合問題	一般・前期	文章や資料の読解、分析を含め総合的思考力を試す設問により、「学力」を評価する。
個人面接	一般・前期	事前に提出される「志望理由書」を資料に用いて、志望理由、医療に対する関心、卒業後の進路等について、質疑応答を行うことにより、「行動力」、「意欲」を評価する。
	総合Ⅱ	
	学士編入学	
ケーススタディの自学自習	総合Ⅱ	与えられたシナリオ及び資料を読み、自身の考えを論述させる。読解力、日本語の文章力、論理的な表現力をととして、「学力」を評価する。
ワークショップ	総合Ⅱ	与えられたテーマについて、グループで問題を解く。コミュニケーション能力、協調性、積極性等により、「行動力」、「意欲」を評価する。
TOEFL	学士編入学	英語について、修業年限4年以上の大学卒業レベルの「学力」を評価する。
基礎自然科学・数学	学士編入学	物理・化学・生物・数学の筆記試験をととして、修業年限4年以上の大学卒業レベルの「学力」を評価する。

※令和6年度選抜においては、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う措置により、選抜方法、評価要素等が、「入学者選抜の基本方針」と一部異なることがあります。

〈入試に係る取組・改善状況〉

- 令和5年度入試では、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う措置として、令和3年度及び4年度入試同様、調査書及び志望理由書の評価を実施しないことなど、出願書類の取扱いを変更した。
- 北海道の高等学校への広報活動や本学学生の就職支援の拠点を札幌市内に設けることの検討を行った。令和5年4月に「札幌サテライト」を設置し、これまでの活動の強化、北海道在住の本学卒業生とのネットワーク構築を進めることとしている。
- 高等学校の新学習指導要領の影響を受ける令和7年度入試改革に向け、前年度に引き続き県内の高校を直接訪問して、今後の進学傾向や高大連携事業への取組、入試対策等に関する情報収集等を行いながら検討を重ね、令和4年度中に実施教科・科目(配点を除く)を公表した。

学部等名 医学部保健学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.hirosaki-u.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000240.htm）
（概要） 医学部は、高度な知識及び技術と科学的素養を身に付け、豊かな人間性をもって医学・医療に貢献する人材の育成を目的とする。 ○保健学科における人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的は次の各号に掲げるとおりとする。 （１）高度の医療技術はもとより豊かな人間性と倫理性を備えた保健医療の専門職を育成する。 （２）問題を科学的に分析し解決する能力と独創性を備えた保健医療の専門職を育成する。 （３）協調性に富み、多職種による連携協力の実践を通して国民の健康と福祉に貢献できる保健医療の専門職を育成する （４）国際的視野を備えて活躍できる保健医療の専門職を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/2/2020/03/02DPM02.pdf）
（概要） 医学部保健学科では、カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程に沿って保健医療分野における専門知識・技能等を習得するとともに、豊かな人間性と倫理性を兼ね備え、国民の健康と福祉に貢献できる者に対して、看護学専攻は学士（看護学）の学位を、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻は学士（保健学）の学位を授与します。 具体的には、つぎの目標に達していることが学位取得の要件となります。 【看護学専攻】 ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い知識と各保健医療専門職としての専門的な知識・技術をもとに、保健医療分野の動向を見通す力を身に付けていること。 ・修得した専門的知識・技術を保健医療の場で活かすことにより、直面する課題を解決する力をもっていること。 ・医療専門職者として保健医療を正しく認識し社会貢献を意識し、生涯にわたり自分自身を成長させていくための探求力を身に付けていること。 ・看護専門職に必要な最新の専門知識及び人間や社会への洞察を深化させ見通す力を身に付けていること。 ・看護を取り巻く社会的ニーズの変化に柔軟に対応し、チーム医療の一員として、他職種との連携・協働、調整及び問題を解決する実践力を身に付けていること。 【放射線技術科学専攻】 ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い知識と各保健医療専門職としての専門的な知識・技術をもとに、保健医療分野の動向を見通す力を身に付けていること。 ・修得した専門的知識・技術を保健医療の場で活かすことにより、直面する課題を解決する力をもっていること。 ・医療専門職者として保健医療を正しく認識し社会貢献を意識し、生涯にわたり自分自身を成長させていくための探求力を身に付けていること。 ・最新の専門知識と技術及び論理的思考と客観的判断に基づく洞察力を身に付けていること。 ・放射線技術の専門知識を最新の医療技術に応用できる学術的問題解決能力を身に付けていること。 【検査技術科学専攻】 ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い知識と臨床検査技師としての専門的な知

識・技術をもとに、保健医療分野の動向を見通す力を身に付けていること。

- ・習得した専門的知識・技術を保健医療の場で活かすことにより、直面する課題を解決する力を身に付けていること。
- ・医療専門職者として保健医療の正しい認識と社会貢献の意識、および生涯にわたり自分自身を成長させていくための探求力を身に付けていること。
- ・最新の専門知識、判断力、実践力をもって臨床検査学の諸問題を的確に見極める能力を身に付けていること。
- ・チーム医療の一員として地域の保健医療に貢献できる連携能力を身に付けていること。

【理学療法学専攻】

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い知識と保健医療専門職としての専門的な知識・技術をもとに、保健医療分野の動向を見通す力を身に付けていること。
- ・修得した専門的知識・技術を保健医療の場で活かすことにより、他の専門職と協働・連携して個人や2地域社会が直面している保健医療上の問題や課題を解決していく力を身に付けていること。
- ・理学療法士として社会貢献を意識し、自己の成長と保健医療分野の発展のために生涯にわたって学び続ける力を身に付けていること。

【作業療法学専攻】

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い知識と保健医療専門職である作業療法士としての専門的な知識・技術をもとに、保健医療分野の動向を見通す力を身に付けていること。
- ・修得した専門的知識・技術を保健医療の場で活かすことにより、直面する課題を解決する力をもっていること。
- ・保健医療専門職者として保健医療を正しく認識し社会貢献を意識し、生涯にわたり自分自身を成長させていくための探求力を身に付けていること。
- ・最新の専門知識、実践力及び判断力、作業療法学の諸問題を的確に見極める能力を身に付けていること。
- ・チーム医療の一員として地域のリハビリテーション医療に貢献しうる問題解決能力を身に付けていること。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/2/2020/03/02CPM02.pdf>）

（概要）

医学部保健学科では、高度の医療技術はもとより、豊かな人間性と倫理性を兼ね備え、国民の健康と福祉に貢献できる保健医療の専門職の育成を目的としたカリキュラムを提供するという観点から、教育課程の編成・実施方針をつぎのように定めます。

【看護学専攻】

1. 教育課程の編成・実施等

- ・幅広い教養【教養教育：社会・文化、自然・科学、人間・生命】と外国語の運用能力【教養教育：英語、多言語】を身に付け、保健医療分野の国際状況【教養教育：グローバル科目】や地域状況【教養教育：ローカル科目】を的確に見極める力を養います。
- ・基礎ゼミナール等で培った実践的学習能力をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、保健医療分野の課題を発見・解決する力を養います。【教養教育：スタディスキル導入・学部越境型地域志向科目群】
- ・専門共通科目は、各専攻に共通して必要な科目であり、保健医療専門職の立場から他領域を理解するとともに、保健医療への考え方及び保健医療専門職者としての資質を養います。【保健学概論、コミュニケーション論、医療リスクマネジメント、人体形態学、人体機能学、人体病理学など】
- ・専門基礎科目及び専門科目は、養成する保健医療専門職の国家試験受験資格を満たすた

めに必要な科目であり、1 年次から専門科目を組み込んだ楔型の構成とし、講義の後に演習・実習を展開します【母性看護学概論・演習実習、小児看護学概論・演習・実習、成人看護学概論・演習・実習、老年看護学概論・実習・演習、精神看護学概論・演習・実習、在宅看護学概論・演習・実習など】

- ・看護専門職に必要な知識を体系的に教授することで、人間や社会への洞察を深化させ見通す力を養います。【人間発達論、疾病論、社会福祉学、看護学概論、看護技術学、看護過程論演習など】
- ・看護学の専門知識を活用し、社会的ニーズの変化に気づき柔軟に対応し、チーム医療の一員として、他職種と連携・協働、調整能力を発揮し問題を解決していく力を培います。【看護学概論、基礎看護学実習など】
- ・看護専門職の教育や啓発に役立つ基礎的能力を身に付け、創造力と探求の習慣を確立し、生涯にわたって看護学を発展・向上させようと学び続ける力を培います。【看護教育学概論、看護教育方法論、卒業研究など】

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに CAP 制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促します。
- (2) 年次配置に応じて講義、演習、実習を効果的に組み合わせた教育を行います。
- (3) 主体的に学び続け、見通す力と解決する力を涵養する教育を行います。
- (4) 自ら課題を見出し、その解決に向けて探求を進め、成果を表現する実践的な能力を身に付けさせるため、学生が主体となる能動的な授業を行います。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPA を用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価します
- (2) 各科目の学習成果は、定期試験、実技試験、レポート、授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。

【放射線技術科学専攻】

1. 教育課程の編成・実施等

- ・幅広い教養【教養教育：社会・文化、自然・科学、人間・生命】と外国語の運用能力【教養教育：英語、多言語】を身に付け、保健医療分野の国際状況【教養教育：グローバル科目】や地域状況【教養教育：ローカル科目】を的確に見極める力を養います
- ・基礎ゼミナール等で培った実践的学習能力をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、保健医療分野の課題を発見・解決する力を養います。【教養教育：スタディスキル導入・学部越境型地域志向科目群】
- ・専門共通科目は、各専攻に共通して必要な科目であり、【人体形態学、人体機能学、等】保健医療専門職の立場から他領域を理解するとともに、保健医療への考え方及び保健医療専門職者としての資質の育成を目指します。【保健学概論等】
- ・専門基礎科目及び専門科目は、養成する保健医療専門職の国家試験受験資格を満たすために必要な科目であり、1 年次から専門基礎科目を組み込んだ楔型の構成とし、講義の後に演習・実習を展開します。【放射線物理学・演習、放射線計測学・演習・実験、等】
- ・専門知識と技術を統合するよう体系的に教授することで、論理的思考と客観的判断に基づく洞察力を養います。【診療画像技術学Ⅰ・Ⅱ・演習、核医学検査学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、放射線治療機器工学・放射線治療技術学・演習Ⅰ・演習Ⅱ、等】
- ・放射線技術の専門知識を最新の医療技術に応用し、高度な専門知識を活かして問題を解決するための学術的問題解決能力を養います。【卒業研究等】
- ・診療放射線技師として、日々目覚ましく進歩を遂げる医療技術を学び、探求する習慣を獲得します。【臨床実習Ⅰ・Ⅱ等】

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに CAP 制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促します。
- (2) 主体的に学び続け、見通す力と解決する力を涵養する教育を行います。
- (3) 自ら課題を見出し、その解決に向けて探究を進め、成果を表現する実践的な能力を身に付けさせるため、学生が主体となる能動的な授業を拡充します。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPA を用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価します。
- (2) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。

【検査技術科学専攻】

1. 教育課程の編成・実施等

- ・幅広い教養【教養教育：社会・文化、自然・科学、人間・生命】と外国語の運用能力【教養教育：英語、多言語】を身に付け、保健医療分野の国際状況【教養教育：グローバル科目】や地域状況【教養教育：ローカル科目】を的確に見極める力を養います。
- ・基礎ゼミナール等で培った実践的学習能力をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、保健医療分野の課題を発見・解決する力を養います【教養教育：スタディスキル導入科目、学部越境型地域志向科目、キャリア教育】。
- ・専門共通科目は、各専攻に共通して必要な科目であり、保健医療専門職の立場から他領域を理解するとともに、保健医療への考え方及び保健医療専門職者としての資質を養います。【保健学概論、コミュニケーション論、医療リスクマネジメント、人体形態学、人体機能学、人体病理学など】
- ・専門基礎科目及び専門科目は、養成する保健医療専門職の国家試験受験資格を満たすために必要な科目であり、1 年次から専門科目を組み込んだ楔型の構成とし、講義の後に演習・実習を展開します。【医用情報機器工学、臨床生理学、臨床化学検査学、栄養・代謝学、分子生物検査学、尿検査学、病理組織細胞検査学、臨床免疫学、臨床血液学、臨床微生物検査学、内科学Ⅰ,Ⅱ、衛生学・公衆衛生学など】
- ・臨床検査技師として必要な実践力を習得するとともに、専門知識と判断力をもって保健医療の一端を担う臨床検査学の諸問題を的確に見極める能力を身に付けます。【検査管理総論、臨床検査総合演習Ⅰ,Ⅱ、臨床実習など】
- ・チーム医療の一員として地域の保健医療に貢献できる連携能力を身に付け、問題解決能力を高めます。【地域医療検査学、感染制御学など】
- ・臨床検査技師として、保健医療分野の諸問題を探求し学び続ける力を獲得します。【卒業研究など】。

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに CAP 制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促します。
- (2) 臨床検査に関する専門知識と技術の系統的な教育を行う。学習は講義・演習・実習を段階的に実施することで知識・理解・実践力を高め、臨床検査技師として必要な見通す力と解決する力を身に付けさせます。
- (3) 将来にわたって自ら臨床検査学分野の課題を見出し、その解決に向けた論理的思考力と実行力を養うため、日頃からプレゼンテーション、グループディスカッション、アクティブ・ラーニングを取り入れた学生主体の能動型授業を展開します

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPA を用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価します。
- (2) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などから臨床検査に関する専門知識及び技術の修得達成度を客観的に評価する。その評価方法については、授業内容の詳細とともに到達目標と成績評価基準をシラバスにおいて科目ごとに明示します。

【理学療法学専攻】

1. 教育課程の編成・実施等

- ・幅広い教養【教養教育：社会・文化，自然・科学，人間・生命】と外国語の運用能力【教養教育：英語，多言語】を身に付け，保健医療分野の国際状況【教養教育：グローバル科目】や地域状況【教養教育：ローカル科目】を的確に見極める力を養います。
- ・基礎ゼミナール等で培った実践的学習能力をとおり国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに，保健医療分野の課題を発見・解決する力を養います【教養教育：スタディスキル導入科目，学部越境型地域志向科目，キャリア教育】。
- ・保健医療専門職に必要な人体に関する基礎知識と健康・保健の知識・考え方を身に付けるとともに，保健医療専門職それぞれの役割と協働・連携について理解し，個人や社会における諸問題や課題を多面的に見通す力を養います。【専門共通科目：人体形態学，人体機能学，人体病理学，保健学概論，医療リスクマネジメント】
- ・リハビリテーションと理学療法に関する専門的知識・技術と考え方を1年次から体系的に学修し，リハビリテーションの対象者が抱える諸問題や地域の課題を見きわめ，チーム医療の一員として解決していく力を養います。【専門基礎科目：運動学，理学療法学概論，リハビリテーション医学】，【専門科目：理学療法評価学，臨床判断分析学，運動療法学，物理療法学，義肢装具学，筋骨格系障害・神経系障害・脳障害・内部系障害・小児・スポーツ障害理学療法学，地域理学療法学，理学療法管理学，臨床実習Ⅰ～Ⅴ等】
- ・理学療法学の学術的課題を計画的および論理的に探求・解決するための研究方法を身に付け，理学療法士として社会貢献を意識し，生涯にわたって自己の成長と保健医療分野の問題を探求・解決するために学び続ける力を養います【専門科目：理学療法研究方法論・理学療法研究演習】，【卒業研究】

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに CAP 制を実施することにより，卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促します。
- (2) 理学療法に関する専門教育をとおり理学療法の専門知識と実践力を習得し，リハビリテーション医療に関わる諸問題を見通す力と解決する力を涵養する教育を行います。
- (3) 演習，実習，臨床実習，卒業研究をとおり，その課題の解決に向けて探求を進め，成果を表現する実践的な能力を身に付けるため，学生が主体となる能動的な授業を行います。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため，カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し，GPA を用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価します。
- (2) 各科目の学習成果は，定期試験，レポート，実技試験，授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし，その評価方法については，授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。

【作業療法学専攻】

1. 教育課程の編成・実施等

・幅広い教養【教養教育：社会・文化，自然・科学，人間・生命】と外国語の運用能力【教養教育：英語，多言語】を身に付け，保健医療分野の国際状況【教養教育：グローバル科目】や地域状況【教養教育：ローカル科目】を的確に見極める力を養います。 ・基礎ゼミナール等で培った実践的学習能力をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに，保健医療分野の課題を発見・解決する力を養います【教養教育：スタディスキル導入科目，学部越境型地域志向科目，キャリア教育】。 ・保健医療専門職者として各専攻に共通して必要な基礎知識を修得させます。【専門共通科目：人体形態学，人体機能学等】 ・チーム医療の一員である保健医療専門職の立場から他領域を理解するとともに，保健医療への考え方及び保健医療専門職者としての資質を養います。【専門共通科目：保健学概論，医療リスクマネジメント等のコア科目】 ・養成する保健医療専門職の国家試験受験資格を満たすために必要な専門基礎科目及び専門科目は，1 年次から専門科目を組み込んだ楔型の構成とし，講義の後に演習・実習を展開します。 ・チーム医療の一員として地域のリハビリテーション医療に貢献しうる基礎的な力を養います。【専門基礎科目：リハビリテーション医学，言語療法学等】 ・作業療法士に必要とされる実践力を涵養し，専門知識と判断力をもってリハビリテーション医療に関わる作業療法学の諸問題を的確に見極める能力を養います。【専門科目：作業療法評価学，作業治療学，臨床実習等】 ・作業療法士に必要とされる実践力を涵養し，専門知識と判断力をもってリハビリテーション医療に関わる作業療法学の諸問題を的確に見極める能力を養います。【専門科目：作業療法評価学，作業治療学，臨床実習等】 2. 教育・学習方法 (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに CAP 制を実施することにより，卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促します。 (2) 作業療法に関する専門教育をとおして作業療法の専門知識と実践力を習得し，リハビリテーション医療に関わる諸問題を見通す力と解決する力を涵養する教育を行います。 (3) 演習，実習，臨床実習，卒業研究をとおして，その課題の解決に向けて探求を進め，成果を表現する実践的な能力を身に付けるため，学生が主体となる能動的な授業を行います。 3. 学習成果の評価 (1) 学習成果を厳格に評価するため，カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し，GPA を用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価します。 (2) 演習，実習，臨床実習，卒業研究をとおして，課題解決に向けての主体性・自律性およびリハビリテーション医療に関わる諸問題を見通す力と解決する力を評価します。 (3) 各科目の学習成果は，定期試験，レポート，授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし，その評価方法については，授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。	入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/4/2022/11/igaku_hoken_ap_2022.pdf) (概要) 1) 医学部保健学科が求める学生像 医学部保健学科では，保健医療の高度な知識及び技術を習得し，豊かな人間性と問題解決能力を備え，創造性，独創性と国際的視野を有し，社会で活躍できる人材の育成を目的
--	--

としています。

そのような人材の育成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- ・保健医療専門職となるための学修に必要な基礎的学力
- ・将来、他の医療職者と協調しながら保健医療活動を実践するための行動力
- ・向上心と研究心を基に、保健医療の実践者として社会に貢献する強い意欲

また、医学部保健学科の各専攻は、それぞれ次のような学生を求めます。

【看護学専攻】

- ・人間や生命、健康に関心を持ち、看護専門職者として知的・人格的に成長しようとする意欲のある人
- ・人間の尊厳を重んじ、人や社会、文化の多様性を認め、人と良好な関係を築くことができる人

【放射線技術科学専攻】

- ・診療放射線技師専門職となるための学修に必要な学力を有し、特に理系の科目をしっかり履修した人
- ・チーム医療の一員として積極的にコミュニケーションを図り、他の医療技術者と互いに協力し合い、より良い医療を提供するための行動力のある人
- ・医療を安全に行う能力を有し、生涯にわたり向上心・探究心を持ち続け、知的・人格的に成長しようとする意欲のある人

【検査技術科学専攻】

- ・医療従事者としての自覚とチーム医療遂行のための協調性を持ち、鋭い観察力と洞察力ならびに応用力を備えて保健医療の発展のために積極的に行動できる人
- ・自然科学、保健医療、臨床検査に強い関心を持ち、検査職をとおして人々の健康維持・増進に積極的に取り組む意欲のある人

【理学療法学専攻】

- ・他者と適切な関係を築きながら、さまざまな人たちと協働して、障害者等が抱える問題の解決に取り組む行動力を有する人
- ・理学療法士として向上心・研究心を持って保健医療に取り組み、障害者等のリハビリテーションに貢献したいという強い意欲のある人

【作業療法学専攻】

- ・作業療法の対象者の個別の価値観や生活を尊重し、対象者の希望に沿った作業活動を考えつつ実践するための行動力のある人
- ・チーム医療の一員として、他職種を尊重しながら、作業療法を積極的に実行する意欲のある人

2) 入学志願者に求める学習の取組

医療従事者は、高度な知識や技術が求められますので、高等学校においては履修するすべての教科についての幅広い知識が必要とされます。

- ・チーム医療の一員として医療に関わることも多いため、課外活動やボランティア活動も含めて積極的な取り組みを行う行動力を持っていることが望まれます。
- ・研究心や探求心などに基づき、さまざまなことに関わる意欲や他者への思いやりを持つことが必要です。

3) 入学者選抜の基本方針

医学部保健学科では学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的な評価方法により別表のとおり入学者を選考します。

【別表 1】入学者選抜方法と重点評価項目

選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目		
			学力	行動力	意欲
一般選抜 (前期)	共通テスト	高等学校修了レベルの学習の達成度を評価するとともに、医療従事者としての資質・能力、適性、意欲・関心等を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	◎	○	○
	個別学力検査				
	小論文（該当する専攻のみ）				
	志望理由書				
	調査書				
総合型選抜Ⅱ	共通テスト	本学科のカリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための基礎的学力、資質・能力、適性、意欲・関心等を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	◎	◎	◎
	小論文				
	個人面接				
	志望理由書				
	調査書				
編入学入試 (第3年次)	学力検査	専門教育についての学習に強い意欲と行動力を評価するという観点から、「学力」については、学力検査と小論文、「意欲」、「行動力」については個人面接で評価し、総合評価して選抜します。	◎	◎	◎
	小論文				
	個人面接				

注) 点数評価・段階評価する項目のうち、◎大きい比重、○小さい比重

注) 編入学試験では、志望理由書は面接の基礎資料とする。

【別表 2】入学者選抜方法の内容と評価要素

選抜方法	選抜区分	選抜内容と評価要素
小論文	一般・前期	日本の保健医療が現代社会で直面している課題等をテーマに自身の考えを記述させます。 日本語の文章力、論理的な表現力の観点から「学力」を評価します。 また、さまざまな課題を多面的に把握し解決するための資質・能力の観点から「意欲」、「行動力」も評価します。
	編入学	日本の保健医療が現代社会で直面している課題等をテーマに自身の考えを記述させます。
	総合Ⅱ	日本語の文章力、論理的な表現力の観点から「学力」を評価します。
個人面接	総合Ⅱ	自己 PR、志望理由、入学後の学習計画と大学卒業後の進路、高等学校での学習や課外活動等について質疑応答を行います。
	編入学	志望理由、専門分野に関する興味関心についての質疑応答の内容から「意欲」、課外活動・ボランティア活動についての質疑応答の内容から「行動力」を評価します。
学力検査	編入学	英語の基礎学力を問う問題に解答させます。 英文和訳においては英語の文章の読解力と日本語の表現力を評価します。
志望理由書	一般・前期	志望理由、入学後の学習計画と大学卒業後の進路等について、これまでの勉学やさまざまな活動をとおして得た経験を基に自分の

	総合Ⅱ	考えを記入させます。 本学科に対する理解や、専門分野に対する強い興味・関心、主体的に学び続けようとする積極性などにより、「意欲」を評価します。
調査書	一般・前期	高等学校での科目の履修状況、教科外活動の状況、ボランティア活動・プロジェクト活動など校外での活動、各種の資格・免許取得などにより、主に「行動力」を評価します。

※令和6年度選抜においては、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う措置により、選抜方法、評価要素等が、「入学者選抜の基本方針」と一部異なることがあります。

〈入試に係る取組・改善状況〉

1. 令和5年度入試では、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う措置として、令和3年度及び4年度入試同様、調査書及び志望理由書の評価を実施しないことなど、出願書類の取扱いを変更した。
2. 北海道の高等学校への広報活動や本学学生の就職支援の拠点を札幌市内に設けることの検討を行った。令和5年4月に「札幌サテライト」を設置し、これまでの活動の強化、北海道在住の本学卒業生とのネットワーク構築を進めることとしている。
3. 高等学校の新学習指導要領の影響を受ける令和7年度入試改革に向け、前年度に引き続き県内の高校を直接訪問して、今後の進学傾向や高大連携事業への取組、入試対策等に関する情報収集等を行いながら検討を重ね、令和4年度中に実施教科・科目（配点を除く）を公表した。

学部等名 医学部心理支援科学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hirosaki-u.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000240.htm ）
（概要） 医学部は、高度な知識及び技術と科学的素養を身に付け、豊かな人間性をもって医学・医療に貢献する人材の育成を目的とする。 ○心理支援科学科における人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的は次の各号に掲げるとおりとする。 （1）専門的な心理学及び臨床心理学の知識・技能に加え、基本的な医学及び保健医療の知識・技能を有し、問題を解決する能力を有する人材を育成する。 （2）地域社会における課題を理解し、心理支援職としての役割を通して国民の健康と福祉に貢献できる人材を育成する。 （3）生命に対する高い倫理観と社会的な責任を有する人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/2/2020/03/02DPM03.pdf ）
（概要） 心理支援科学科では、心理学分野における専門的知識・技能等を、医学・保健学分野における基本的知識・技能等を修得するとともに、豊かな人間性と倫理性を兼ね備え、地域の心理支援のリーダーとして地域住民の健康増進と福祉に貢献できる者に対して、学士（心理学）の学位を授与します。具体的には、つぎの目標に達していることが学位取得の要件となります。 ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い専門的知識、心理学的支援の根幹となる心理学及び主要領域である医学・保健医療の基本的な知識・技術をもとに、地域が抱える心理学的課題の動向を見通す力を身に付けていること。 ・心理学を中心とした専門的知識・技術を、医学・保健医療分野をはじめとする諸分野で活かすことにより、支援を必要とする者及び地域が抱える直面する心理学的課題を解決

する力をもっていること。 ・心理学に基づく支援方法及び医学・保健医療の基本的な知識・技術等を修得し、社会貢献を意識して、生涯にわたり自分自身を成長させていくための探求力を身に付けていること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/2/2020/03/02CPM03.pdf）
（概要） 1. 教育課程の編成・実施等 心理支援科学科では、高度な心理学、医学及び保健医療の知識・技能等のもとより、豊かな人間性と倫理性を兼ね備え、地域の心理支援のリーダーとして地域住民の健康増進と福祉に貢献できる心理支援職の養成(具体的には公認心理師資格の取得)を目的として、教育課程の編成・実施方針をつぎのように定めます。 ア 教養教育科目について ●国際状況や地域状況を的確に見極める力 ●地域の課題を発見・解決する力 イ 専門教育科目について ●地域で活躍できる心理支援職としての資質 ●公認心理師の国家試験受験資格を満たすために必要な科目目 ウ 医学部心理支援科学科において修得させる能力等 ●基本的な医学及び保健医療の知識及び技能 ●専門的な心理学及び臨床心理学の知識及び技能 ●地域において適切な心理支援ができる実践力 ●福祉領域、教育領域、司法・犯罪領域及び産業・労働領域の基本的知識 ●心理支援職としての責任感と倫理観を身に付けた実践力 2. 教育・学習方法 (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに CAP 制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促します (2) 主体的に学び続け、見通す力と解決する力を涵養する教育を行います。 (3) 自ら課題を見出し、その解決に向けて探究を進め、成果を表現する実践的な能力を身に付けさせるため、学生が主体となる能動的な授業を拡充します。 3. 学習成果の評価 (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPA を用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価します。 (2) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/2/2022/04/igaku_shinri_ap_2022.pdf）
（概要） 1) 医学部心理支援科学科が求める学生像 医学部心理支援科学科では、科学的思考力を有し、こころの問題を感受し、その問題を解決できる能力や生命に対する高い倫理性と豊かな人間性を有し、悩める人に寄り添い、心理支援職としての役割をとおして地域住民の健康と福祉に寄与し、社会に貢献する地域のリーダーとなる人材の育成を目的としています。 そのような人材の育成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプ

ロマ・ポリシー」と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- ・心理支援職としての知識と技術を修得するのに必要な基礎学力
- ・他職種と連携しチームの一員として心理支援活動を実践するための行動力
- ・社会問題や地域の動向に関心を持ち、心理支援職として社会に貢献する強い意欲

2) 入学志願者に求める学習の取組

- ・心理支援職は、高度な知識や技術が求められますので、高等学校においては履修するすべての教科についての幅広い知識が必要とされます。
- ・他職種と連携しチームの一員として心理支援業務に関わることも多いため、課外活動やボランティア活動も含めて積極的な取り組みを行う行動力を持っていることが望まれます。
- ・幅広い研究心や探求心などに基づき、社会問題や地域の動向に関心を持ち、自ら積極的に関わる意欲や他者への思いやりを持つことが必要です。

3) 入学者選抜の基本方針

医学部心理支援科学科では学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的な評価方法により別表のとおり入学者を選考します。

【別表1】入学者選抜方法と重点評価項目

選抜区分	選抜方法	目 的 と 概 要	重点評価項目		
			学 力	行 動 力	意 欲
一般選抜 (前期)	共通テスト	高等学校修了レベルの学習の達成度を評価するという観点から、知識・理解力・思考力・判断力・表現力について、共通テストと個別学力検査により評価します。また、「意欲」、「行動力」については、志望理由書及び調査書により評価します。これらの結果を総合評価して選抜します。	◎	○	○
	個別学力検査				
	志望理由書				
	調査書				

注) 点数評価・段階評価する項目のうち、◎大きい比重、○小さい比重

【別表2】入学者選抜方法の内容と評価要素

選抜方法	選抜区分	選抜内容と評価要素
志望理由書	一般・前期	志望理由、入学後の学習計画と大学卒業後の進路等について、これまでの勉強やさまざまな活動をとおして得た経験を基に自分の考えを記入させます。 本学科に対する理解や、専門分野に対する強い興味・関心、主体的に学び続けようとする積極性などにより、「意欲」を評価します。
調査書	一般・前期	高等学校での科目の履修状況、教科外活動の状況、ボランティア活動・プロジェクト活動など校外での活動、各種の資格・免許取得などにより、主に「行動力」を評価します。

※令和6年度選抜においては、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う措置により、選抜方法、評価要素等が、「入学者選抜の基本方針」と一部異なることがあります。

〈入試に係る取組・改善状況〉

1. 令和5年度入試では、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う措置として、令和3年度及び4年度入試同様、調査書及び志望理由書の評価を実施しないことなど、出願書類の取扱いを変更した。
2. 北海道の高等学校への広報活動や本学学生の就職支援の拠点を札幌市内に設けることの検討を行った。令和5年4月に「札幌サテライト」を設置し、これまでの活動の強化、北海道在住の本学卒業生とのネットワーク構築を進めることとしている。
3. 高等学校の新学習指導要領の影響を受ける令和7年度入試改革に向け、前年度に引き続き県内の高校を直接訪問して、今後の進学傾向や高大連携事業への取組、入試対策等に関する情報収集等を行いながら検討を重ね、令和4年度中に実施教科・科目（配点を除く）を公表した。

学部等名 理工学部

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.hirosaki-u.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000258.htm>）

（概要）

理工学部は、高度な専門知識や技術の修得に加え、豊かな倫理観と国際感覚を備え、創造力と適応力及び総合判断力に富む人材の育成を目的とする。

○各学科の教育研究上の目的は次の各号に掲げるとおりとする。

（1）数物科学科

数学と物理学の基礎を踏まえて、様々な社会現象を数理的、計算科学的に処理できる能力及び地域発のイノベーションの核となりうる柔軟な応用力を持つ人材を養成する。数学、物理、情報科学の基礎を学び、社会で直面する複雑な問題を能動的に解決する能力や社会で必要とされる判断力・コミュニケーション能力を身に付けるよう教育研究を行う。

（2）物質創成化学科

化学の基幹学問領域である無機化学、有機化学、分析化学及び物理化学の教育に重点を置き、基礎学力を有した人材を育成する。基礎化学を基に、それぞれの応用化学の専門分野を学び取り、社会の要請に対応した技術、物質、素材等の研究開発能力を身につけた創造性に優れた研究者、技術者を育成する。

（3）地球環境防災学科

地球とそれを取り巻く領域を物理や化学を基礎として精密に扱うとともに、地球全体を一連のシステムと捉えた教育研究も実施する。それにより、地域に密着した視点とグローバルな観点から、地球環境問題や自然災害など今後の人類が直面する課題に対応できる人材を育成する。

（4）電子情報工学科

電子技術、情報技術(IT)、それらの融合たる組込み系技術の強化を軸とした IT 基盤技術に関する教育研究を遂行し、グリーン電子材料・システム対応技術、組込みシステム技術、バイオ・メディカル関連技術、情報セキュリティ技術等、地域や社会からの多様な要請に対応できる、実践力を伴う技術者・研究者を育成する。

（5）機械科学科

機械工学の基礎を基盤とし、知能化機械技術者として国際的に活躍できる多様で柔軟な思考力を備えた創造性に富む人材、また、新産業分野として創出が加速される医用システム産業に対応できる専門性の高い人材を育成する。

（6）自然エネルギー学科

エネルギー資源からエネルギー変換・輸送・貯蔵・利用，そしてエネルギーシステムに関する分野をベース知識とし，それぞれの分野におけるエネルギー政策，人文社会科学や経済学との連携に基づいて，グローバルな視点からエネルギー問題を総合的視点で捉えて次世代エネルギー分野へと展開できる人材を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/2/2020/03/02DPS00.pdf>）

（概要）

理工学部では，カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程に沿って理工学の諸分野における専門知識・技能等を習得し，高い倫理観をもって知的探求に取り組み，科学・技術，世界と地域の発展のために活用できる力を身に付けた人に対して，学士（理工学）の学位を授与します。具体的には，つぎの目標に達していることが学位取得の要件です。

【数物科学科・数理科学コース】

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに，自然科学の本質を深く理解し，理工学と社会の動向を見通す力を修得していること。
- ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって，現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。
- ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって，生涯にわたって自らを成長させていくための力を修得していること。
- ・数学の知識を活かして，科学・技術や社会の問題を分析し，数理的な問題を的確に見極める力，問題の本質を構成する法則性を見いだす力を修得していること。
- ・代数学，幾何学，解析学，応用数学の知識を活かして課題を数理的に解決する力を修得していること。

【数物科学科・物質宇宙物理学コース】

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに，自然科学の本質を深く理解し，理工学と社会の動向を見通す力を修得していること。
- ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって，現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。
- ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって，生涯にわたって自らを成長させていくための力を修得していること。
- ・物理学に関連する専門知識を活かして，科学・技術や社会の問題を分析し，課題を見極める力を修得していること。
- ・物理学を礎とする技術者・研究者として，技術革新に対して常に探求しつづける力を修得していること。

【数物科学科・応用計算科学コース】

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに，自然科学の本質を深く理解し，理工学と社会の動向を見通す力を修得していること。
- ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって，現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。
- ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって，生涯にわたって自らを成長させていくための力を修得していること。
- ・計算科学に関連する専門知識を活かして，自然や社会への洞察を深化させ，問題を分析し課題を見極める力を修得していること。
- ・数学，物理学，情報科学の視点から，さまざまな課題を数理的に解決する力を修得していること。

【物質創成化学科】

- ・教養教育と専門教育をととして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに，自然科学の本質を深く理解し，理工学と社会の動向を見通す力を修得していること。
- ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって，現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。
- ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって，生涯にわたって自らを成長させていくための力を修得していること。
- ・有機化学，無機化学，分析化学及び物理化学の学習を基盤として，化学の知識と応用力を体系的に修得し，機能性物質の開発，環境調和を指向した機能性材料，リサイクル技術，省エネルギー・省資源技術の研究開発に貢献する力を修得していること。
- ・専門的知識を有し，問題の本質を化学の視点から分析し見極める力を修得していること。
- ・化学に関する専門知識・技能を活かして，科学・技術の発展に貢献していくことができる探求する力を修得していること。

【地球環境防災学科】

- ・教養教育と専門教育をととして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに，自然科学の本質を深く理解し，理工学と社会の動向を見通す力を修得していること。
- ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって，現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。
- ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって，生涯にわたって自らを成長させていくための力を修得していること。
- ・地域とグローバルな観点から，地球環境問題や自然災害など日本と世界が直面する課題に対応できる力を修得していること。
- ・日本と世界が直面する地球環境や自然災害に関する課題に対して学びつづける力を修得していること。

【電子情報工学科】

- ・教養教育と専門教育をととして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに，自然科学の本質を深く理解し，理工学と社会の動向を見通す力を修得していること。
- ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって，現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。
- ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって，生涯にわたって自らを成長させていくための力を修得していること。
- ・電子工学，情報工学，情報科学，並びにそれらの融合領域における専門知識を有し，社会の実現に貢献する電子情報分野の技術革新を支える力を修得していること。
- ・高度情報化社会の中で，科学・技術や社会の問題を分析し，課題を見通す力を修得していること。

【機械科学科・知能システムコース】

- ・教養教育と専門教育をととして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに，自然科学の本質を深く理解し，理工学と社会の動向を見通す力を修得していること。
- ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって，現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。
- ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって，生涯にわたって自らを成長させていくための力を修得していること。
- ・機械工学を基盤として，機械技術者・研究者の立場から科学・技術や社会の問題を分析し，課題を見いだす力を修得していること。
- ・機械工学をととして人類や社会が直面する諸課題を解決し，人類の福祉に貢献する具体的な方法を探求する力を修得していること。

【機械科学科・医用システムコース】

- ・教養教育と専門教育をととして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに，自然

科学の本質を深く理解し、理工学と社会の動向を見通す力を修得していること。 ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって、現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。 ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって、生涯にわたって自らを成長させていくための力を修得していること。 ・機械工学と医用工学の知識を基盤として、人の健康を支える科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見通す力を修得していること。 ・新産業分野として創出が加速される医用システム産業に対応することができる専門家として、人の健康を支える科学・技術、国際社会や地域社会の問題を解決する力を修得していること。 【自然エネルギー学科】 ・教養教育と専門教育をととして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに、自然科学の本質を深く理解し、理工学と社会の動向を見通す力を修得していること。 ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって、現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を修得していること。 ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって、生涯にわたって自らを成長させていくための力を修得していること。 ・エネルギー変換・貯蔵・利用過程・エネルギーシステム全般・環境に配慮した省エネルギー技術の基礎知識を身に付け、実践的・総合的かつグローバルな視点とローカルな視点から科学的に課題に対応する力を修得していること。 ・さまざまなエネルギー技術とその基礎知識を活かして、国際社会や地域社会の問題を解決する力を修得していること。 ・自然エネルギーをととして人類の福祉に貢献する具体的な方法を学びつづける力を修得していること。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/2/2020/03/02CPS00.pdf)
(概要) 理工学部では、変化する現代社会に対応できる幅広い視野と科学・技術の発展に貢献できる力を養うカリキュラムを提供するという観点から、教養教育と専門教育の教育課程の編成・実施方針をつぎのように定める。 1. 教育課程の編成・実施等 【数物科学科・数理科学コース】 ・幅広い教養と外国語の運用能力を身に付け、変化の激しい現代社会の情勢や地域の課題を的確に見極める力を養います。【教養教育：英語・グローバル・ローカル科目群】 ・基礎ゼミナール等の実践的学習をととして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、人間や社会に共通する課題を発見・解決する力を養います。【教養教育：スタディスキル導入・学部越境型地域志向科目群】 ・自然科学を礎として、理工学の諸分野の専門知識・技能を獲得するとともに、自然科学への洞察を深化させ探究心を身に付けることで、変化の激しい科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見通す力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】 ・科学・技術の課題に挑戦し発信する力、国際社会や地域社会が直面する科学・技術の課題の解決に役立つ応用力・実践力を、演習・実験や卒業研究をととして養います。【専門教育：専門応用科目・卒業研究】 ・自己管理力、協調性、コミュニケーション能力を養い、社会の一員としての自覚を培うとともに、専門家としての見識と職業倫理を養います。【専門教育：専門応用科目・マネジメント科目・卒業研究】

- ・探究心を身に付け、人類の福祉に貢献するために、常に学びつづける力を養います。【専門教育：専門応用科目・卒業研究】
- ・数学の知識を活かして、科学・技術や社会の問題を分析し、数理的な問題を的確に見極める力、問題の本質を構成する法則性を見いだす力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・代数学、幾何学、解析学、応用数学の知識を活かして課題を数理的に解決する力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・知的探求心と自由な発想を持ち、科学・技術や社会の問題の解決に取り組むために学びつづける力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】

【数物科学科・物質宇宙物理学コース】

- ・幅広い教養と外国語の運用能力を身に付け、変化の激しい現代社会の情勢や地域の課題を的確に見極める力を養います。【教養教育：英語・グローバル・ローカル科目群】
- ・基礎ゼミナール等の実践的学習をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、人間や社会に共通する課題を発見・解決する力を養います。【教養教育：スタディスキル導入・学部越境型地域志向科目群】
- ・自然科学を礎として、理工学の諸分野の専門知識・技能を獲得するとともに、自然科学への洞察を深化させ探究心を身に付けることで、変化の激しい科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見通す力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・科学・技術の課題に挑戦し発信する力、国際社会や地域社会が直面する科学・技術の課題の解決に役立つ応用力・実践力を、演習・実験や卒業研究をとおして養います。【専門教育：専門応用科目・卒業研究】
- ・自己管理力、協調性、コミュニケーション能力を養い、社会の一員としての自覚を培うとともに、専門家としての見識と職業倫理を養います。【専門教育：専門応用科目・マネジメント科目・卒業研究】
- ・探究心を身に付け、人類の福祉に貢献するために、常に学びつづける力を養います。【専門教育：専門応用科目・卒業研究】
- ・物理学に関連する専門知識を活かして、科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見極める力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・物質材料と宇宙に関する物理学に関連する高度な学識を活かして、学術的な課題、国際社会や地域社会の課題に取り組む力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・物理学を礎とする技術者・研究者として技術革新を起こしていく力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・知的探究心と自由な発想を持ち、科学・技術や社会の問題の解決に取り組むために必要な知識や技能を学びつづける力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】

【数物科学科・応用計算科学コース】

- ・幅広い教養と外国語の運用能力を身に付け、変化の激しい現代社会の情勢や地域の課題を的確に見極める力を養います。【教養教育：英語・グローバル・ローカル科目群】
- ・基礎ゼミナール等の実践的学習をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、人間や社会に共通する課題を発見・解決する力を養います。【教養教育：スタディスキル導入・学部越境型地域志向科目群】
- ・自然科学を礎として、理工学の諸分野の専門知識・技能を獲得するとともに、自然科学への洞察を深化させ探究心を身に付けることで、変化の激しい科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見通す力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・科学・技術の課題に挑戦し発信する力、国際社会や地域社会が直面する科学・技術の課題の解決に役立つ応用力・実践力を、演習・実験や卒業研究をとおして養います。【専門教育：専門応用科目・卒業研究】

門教育：専門応用科目・卒業研究】

- ・自己管理力，協調性，コミュニケーション能力を養い，社会の一員としての自覚を培うとともに，専門家としての見識と職業倫理を養います。【専門教育：専門応用科目・マネジメント科目・卒業研究】
- ・探究心を身に付け，人類の福祉に貢献するために，常に学びつづける力を養います。【専門教育：専門応用科目・卒業研究】
- ・計算科学に関連する専門知識を活かして，自然や社会への洞察を深化させ，問題を分析し課題を見極める力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・主に計算科学に関連する専門知識を，国際社会や地域社会の問題や課題の解決に応用する力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・知的探究心と自由な発想を持ち，科学・技術や社会の問題の解決に取り組むために必要な知識や技能を学びつづける力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】

【物質創成化学科】

- ・幅広い教養と外国語の運用能力を身に付け，変化の激しい現代社会の情勢や地域の課題を的確に見極める力を養います。【教養教育：英語・グローバル・ローカル科目群】
- ・基礎ゼミナール等の実践的学習をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに，人間や社会に共通する課題を発見・解決する力を養います。【教養教育：スタディスキル導入・学部越境型地域志向科目群】
- ・自然科学を礎として，理工学の諸分野の専門知識・技能を獲得するとともに，自然科学への洞察を深化させ探究心を身に付けることで，変化の激しい科学・技術や社会の問題を分析し，課題を見通す力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・科学・技術の課題に挑戦し発信する力，国際社会や地域社会が直面する科学・技術の課題の解決に役立つ応用力・実践力を，演習・実験や卒業研究をとおして養います。【専門教育：専門応用科目・卒業研究】】
- ・自己管理力，協調性，コミュニケーション能力を養い，社会の一員としての自覚を培うとともに，専門家としての見識と職業倫理を養います。【専門教育：専門応用科目・マネジメント科目・卒業研究】
- ・探究心を身に付け，人類の福祉に貢献するために，常に学びつづける力を養います。【専門教育：専門応用科目・卒業研究】
- ・化学の基礎知識を体系的に理解し，問題の本質を化学の視点から分析し見極める力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・基礎的知識に立脚して化学の応用面について理解を深め，科学・技術や社会の課題を解決する力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】】
- ・化学に関する専門知識・技能を活かして，科学・技術の発展に貢献していくことができるように探求の習慣を養うとともに，科学・技術や社会の問題の解決に必要な知識や技能を学びつづける力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】

【地球環境防災学科】

- ・幅広い教養と外国語の運用能力を身に付け，変化の激しい現代社会の情勢や地域の課題を的確に見極める力を養います。【教養教育：英語・グローバル・ローカル科目群】
- ・基礎ゼミナール等の実践的学習をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに，人間や社会に共通する課題を発見・解決する力を養います。【教養教育：スタディスキル導入・学部越境型地域志向科目群】
- ・自然科学を礎として，理工学の諸分野の専門知識・技能を獲得するとともに，自然科学への洞察を深化させ探究心を身に付けることで，変化の激しい科学・技術や社会の問題を分析し，課題を見通す力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・科学・技術の課題に挑戦し発信する力，国際社会や地域社会が直面する科学・技術の課

題の解決に役立つ応用力・実践力を、演習・実験や卒業研究をとおして養います。【専門教育：専門応用科目・卒業研究】

- ・自己管理能力、協調性、コミュニケーション能力を養い、社会の一員としての自覚を培うとともに、専門家としての見識と職業倫理を養います。【専門教育：専門応用科目・マネジメント科目・卒業研究】
- ・探究心を身に付け、人類の福祉に貢献するために、常に学びつづける力を養います。【専門教育：専門応用科目・卒業研究】
- ・自然科学と社会科学の知識を活かし、ローカルなスケールからグローバルなスケールまでの多様な現象を分析し、本質的な課題を見いだす力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・高度専門職業人として地球環境問題の解決や自然災害の防止に取り組み、科学・技術や社会の課題の解決に取り組むための力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・日本と世界が直面する問題に対応し、地球環境や自然災害に関する課題や、科学・技術や社会の問題を解決するために必要な知識や技能を学びつづける力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】

【電子情報工学科】

- ・幅広い教養と外国語の運用能力を身に付け、変化の激しい現代社会の情勢や地域の課題を的確に見極める力を養います。【教養教育：英語・グローバル・ローカル科目群】
- ・基礎ゼミナール等の実践的学習をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、人間や社会に共通する課題を発見・解決する力を養います。【教養教育：スタディスキル導入・学部越境型地域志向科目群】
- ・自然科学を礎として、理工学の諸分野の専門知識・技能を獲得するとともに、自然科学への洞察を深化させ探究心を身に付けることで、変化の激しい科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見通す力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・科学・技術の課題に挑戦し発信する力、国際社会や地域社会が直面する科学・技術の課題の解決に役立つ応用力・実践力を、演習・実験や卒業研究をとおして養います。【専門教育：専門応用科目・卒業研究】
- ・自己管理能力、協調性、コミュニケーション能力を養い、社会の一員としての自覚を培うとともに、専門家としての見識と職業倫理を養います。【専門教育：専門応用科目・マネジメント科目・卒業研究】
- ・探究心を身に付け、人類の福祉に貢献するために、常に学びつづける力を養います。【専門教育：専門応用科目・卒業研究】
- ・高度情報化社会の電子・情報技術者に求められる基礎学力を基盤として、科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見通す力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・電子情報工学や関連分野の専門知識・実践的な技能を活かして、科学・技術、国際社会や地域社会の問題を解決する力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・論理的思考能力と問題解決能力を養い、国際社会や地域社会の一員としてより良い社会の実現に貢献し、科学・技術や社会の問題を解決するために必要な知識や技能を学びつづける力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】

【機械科学科・知能システムコース】

- ・幅広い教養と外国語の運用能力を身に付け、変化の激しい現代社会の情勢や地域の課題を的確に見極める力を養います。【教養教育：英語・グローバル・ローカル科目群】
- ・基礎ゼミナール等の実践的学習をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、人間や社会に共通する課題を発見・解決する力を養います。【教養教育：スタディスキル導入・学部越境型地域志向科目群】

- ・自然科学を礎として、理工学の諸分野の専門知識・技能を獲得するとともに、自然科学への洞察を深化させ探究心を身に付けることで、変化の激しい科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見通す力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・科学・技術の課題に挑戦し発信する力、国際社会や地域社会が直面する科学・技術の課題の解決に役立つ応用力・実践力を、演習・実験や卒業研究をとおして養います。【専門教育：専門応用科目・卒業研究】
- ・自己管理能力、協調性、コミュニケーション能力を養い、社会の一員としての自覚を培うとともに、専門家としての見識と職業倫理を養います。【専門教育：専門応用科目・マネジメント科目・卒業研究】
- ・探究心を身に付け、人類の福祉に貢献するために、常に学びつづける力を養います。【専門教育：専門応用科目・卒業研究】
- ・機械工学を基盤として、機械技術者・研究者の立場から科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見いだす力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・機械工学や関連分野の専門知識・技能を活かして、科学・技術、国際社会や地域社会の問題を解決する力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・機械工学をとおして人類や社会が直面する諸課題を解決し、人類の福祉に貢献する具体的な方法を探求するために必要な知識や技能を学びつづける力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】

【機械科学科・医用システムコース】

- ・幅広い教養と外国語の運用能力を身に付け、変化の激しい現代社会の情勢や地域の課題を的確に見極める力を養います。【教養教育：英語・グローバル・ローカル科目群】
- ・基礎ゼミナール等の実践的学習をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、人間や社会に共通する課題を発見・解決する力を養います。【教養教育：スタディスキル導入・学部越境型地域志向科目群】
- ・自然科学を礎として、理工学の諸分野の専門知識・技能を獲得するとともに、自然科学への洞察を深化させ探究心を身に付けることで、変化の激しい科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見通す力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・科学・技術の課題に挑戦し発信する力、国際社会や地域社会が直面する科学・技術の課題の解決に役立つ応用力・実践力を、演習・実験や卒業研究をとおして養います。【専門教育：専門応用科目・卒業研究】
- ・自己管理能力、協調性、コミュニケーション能力を養い、社会の一員としての自覚を培うとともに、専門家としての見識と職業倫理を養います。【専門教育：専門応用科目・マネジメント科目・卒業研究】
- ・探究心を身に付け、人類の福祉に貢献するために、常に学びつづける力を養います。【専門教育：専門応用科目・卒業研究】
- ・機械工学の基礎と医用工学の基礎を基盤として、人の健康を支える科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見通す力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・機械工学と医用工学の専門分野の知識・技能を活かして人の健康を支える科学・技術、国際社会や地域社会の問題を解決する力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】
- ・機械工学と医用工学をとおして人類や社会が直面する諸問題を解決し、人類の福祉に貢献する具体的な方法を探求するために必要な知識や技能を学びつづける力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】

【自然エネルギー学科】

- ・幅広い教養と外国語の運用能力を身に付け、変化の激しい現代社会の情勢や地域の課題

を的確に見極める力を養います。【教養教育：英語・グローバル・ローカル科目群】 ・基礎ゼミナール等の実践的学習をととして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、人間や社会に共通する課題を発見・解決する力を養います。【教養教育：スタディスキル導入・学部越境型地域志向科目群】 ・自然科学を礎として、理工学の諸分野の専門知識・技能を獲得するとともに、自然科学への洞察を深化させ探究心を身に付けることで、変化の激しい科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見通す力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】 ・科学・技術の課題に挑戦し発信する力、国際社会や地域社会が直面する科学・技術の課題の解決に役立つ応用力・実践力を、演習・実験や卒業研究をととして養います。【専門教育：専門応用科目・卒業研究】 ・自己管理力、協調性、コミュニケーション能力を養い、社会の一員としての自覚を培うとともに、専門家としての見識と職業倫理を養います。【専門教育：専門応用科目・マネジメント科目・卒業研究】 ・探究心を身に付け、人類の福祉に貢献するために、常に学びつづける力を養います。【専門教育：専門応用科目・卒業研究】 ・自然エネルギー資源及び変換・貯蔵・利用などの専門知識を基盤として、エネルギー、科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見いだす力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】 ・さまざまなエネルギー技術とその基礎知識を活かして、エネルギー、科学・技術、国際社会や地域社会の問題を解決する力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】 ・自然エネルギーをととして人類や社会が直面する諸課題を解決し、人類の福祉に貢献する具体的な方法を探求するために必要な知識や技能を学びつづける力を養います。【専門教育：専門基礎科目・専門応用科目・卒業研究】 2. 教育・学習方法 (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに CAP 制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促します。 (2) 主体的に学び続け、見通す力と解決する力を涵養する教育を行います。 (3) 自ら課題を見出し、その解決に向けて探究を進め、成果を表現する実践的な能力を身に付けさせるため、学生が主体となる能動的な授業を行います。 3. 学習成果の評価 (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPA を用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価します。 (2) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などの平常点評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。	入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/4/2022/11/rikou_ap_2022.pdf） （概要） 1) 理工学部が求める学生像 理工学部では、変化する現代社会に対応できる幅広い視野と科学・技術の発展に貢献できる力を養うカリキュラムを提供することによって、自然のしくみを探究する力、先端技術社会を支える科学を発展させ技術を創造する力、変化する現代社会が直面する課題を発見・分析・解決する力を養い、地域や国際社会に貢献する人材の育成を目的としています。 そのような人材の育成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロ
---	---

マ・ポリシー」と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- ・専門教育の基礎となる理数系の学力、および社会の中で専門的能力を活かすための基礎学力
- ・高等学校までに学習すべき課題に真摯に取り組むとともに、自らの個性や資質に合わせてその他の活動にも積極的に参加し、自らを成長させていく行動力
- ・専門を生かして新たな課題を見いだし、解決するために学び続ける意欲

また、理工学部各学科は、それぞれ次のような学生を求めます。

【数物科学科】

（数模型）

- ・数理科学への強い興味を持ち、数理科学に関する分野の学習に興味を持って取り組む意欲のある人
- ・探究心が旺盛で豊かな数学的知識と自在な数理的応用力をもって社会に貢献する意欲のある人

（物理型）

- ・自然の基本原則に興味を持ち、物理学に関する分野の学習に興味を持って取り組む意欲のある人
- ・物質を構成しその性質を決定している量子の世界から広大な宇宙の世界までを支配している自然の基本原則を理解し、より深く探求することやその成果を社会へ還元することに意欲のある人

【物質創成化学科】

- ・化学物質の構造や化学反応のしくみを物質の機能と結びつけて探求することに興味を持ち、化学に関する分野の学習に興味を持って取り組む意欲のある人
- ・自ら課題を見いだし、暮らしを豊かにする機能性物質や環境調和を指向した機能性材料を創成し、リサイクル、省資源、エネルギー創成技術等に関する諸課題を解決するための研究開発に意欲のある人

【地球環境防災学科】

- ・宇宙空間、大気・水圏、地質・岩石、地震・火山等を対象とした地球科学に関する分野の学習に興味を持って取り組む意欲を持つ人
- ・自ら課題を見いだし、地球に関する科学の深化や、地球環境問題の解決、自然災害の防止に貢献することに意欲のある人

【電子情報工学科】

- ・電子回路、電子材料、コンピュータとソフトウェア、通信ネットワーク、セキュリティ、組込みシステムなどの電子情報工学に関する分野の学習に興味を持って取り組む意欲のある人
- ・電子情報工学の発展に強い関心を持ち、学んだことの成果を社会のさまざまな分野で活用することに意欲のある人

【機械科学科】

- ・医用・福祉、環境・エネルギー、航空宇宙、輸送機械、ロボット、AI、ナノテクノロジーなどの機械科学に関する分野の学習に興味を持って取り組む意欲のある人
- ・ものづくりに関する科学技術の発展に強い関心を持ち、失敗を恐れず継続してものごとに取り組む、学んだことの成果を社会のさまざまな領域で活用することに意欲のある人

【自然エネルギー学科】

- ・自然や人間社会に深い興味を持ち、自然エネルギーに関する多様な分野の学習に興味を持って取り組む意欲のある人
- ・地域に存在する自然エネルギー源を利用することや、その活用に意欲のある人

2) 入学志願者に求める学習の取組

- ・理工学分野の学問を学ぶために必要な力として、論理的思考力、自然科学に関する基礎知識、表現やコミュニケーションの能力を身に付けておく必要があります。
- ・自ら課題を探求し、主体的に取り組む学習態度、新しい発見や創造的な活動に取り組むための行動力が必要です。また、他者と協働して学習や研究などに取り組むことができる行動力や学習態度が必要です。
- ・困難な課題に対しても安易にあきらめることなく取り組み、やり遂げようとする意欲を持ち続けることが必要です。また、自然界の仕組みや社会を支える技術について日頃から興味を持ち、学習に自発的に取り組む態度が必要です。

3) 入学者選抜の基本方針

理工学部では、前記の学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的な評価方法により、別表のとおり入学者を選考します。

【別表1】入学者選抜方法と重点評価項目

選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目		
			学力	行動力	意欲
一般選抜 (前期)	共通テスト	高等学校修了レベルの学習の達成度を評価するという観点に、本学部のカリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための意欲、行動力に関する観点を加味し、左記の方法により総合評価して選抜します。	◎	○	○
	個別学力検査				
	出願書類（志望理由書・調査書）				
一般選抜 (後期)	共通テスト	高等学校修了レベルの学習の達成度を評価するという観点に、本学部のカリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための意欲、行動力に関する観点を加味し、左記の方法により総合評価して選抜します。	◎	○	○
	個別学力検査				
	出願書類（志望理由書・調査書）				
総合型選抜Ⅰ	講義の実施とその内容に関するレポート	本学部のカリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための資質・能力、適性、意欲・関心等を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	◎	◎	◎
	個人面接（基礎学力に関する試問を含む）				
	出願書類（志望理由書・調査書）				
編入学入試 (第3年次) 推薦	個人面接（口頭試問を含む）	本学部のカリキュラムに基づく専門科目の学習を主体的に進めていくための資質・能力、適性、意欲・関心等を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	◎	◎	◎
	志望理由書				
	推薦書				
	調査書又は成績証明書				
編入学入試 (第3年次) 一般	個人面接（口頭試問を含む）	本学部のカリキュラムに基づく専門科目の学習を主体的に進めていくための資質・能力、適性、意欲・関心等を評価するという観点から、左記の方法	◎	◎	◎
	志望理由書				

	調査書又は成績証明書	により総合評価して選抜します。			
--	------------	-----------------	--	--	--

注) 点数評価・段階評価する項目のうち、◎大きい比重、○小さい比重

【別表2】入学者選抜方法の内容と評価要素

選抜方法	選抜区分	選抜内容と評価要素
個人面接	総合 I	基礎学力に関する試問において、学部のカリキュラムに基づく学習を進めるのに必要な「学力」を評価します。また、志望動機、入学後の履修計画、卒業後の見通しなどに関する総合的な質疑により、「意欲」および「行動力」を評価します。
	編入学	
講義の実施とその内容に関するレポート	総合 I	学部において実施する講義に、能動的に対応するために必要な「学力」および「行動力」を評価します。
出願書類(志望理由書・調査書)	一般・前期	志望理由書に記載された志望理由と理工学部のアドミッション・ポリシーとの整合性から、「意欲」に関する評価を行います。また、調査書記載の学習や課外活動に対する取組状況から「行動力」に関する評価を行います。以上の評価を総合して段階評価とし、その評価に応じた加点を行います。
	一般・後期	
	総合 I	
志望理由書	編入学	志望理由と理工学部のアドミッション・ポリシーとの整合性から、「意欲」に関する評価を行います。
推薦書	編入学	これまでの学習に対する取組や学習意欲に関する客観評価から、「意欲」および「行動力」の評価を行います。
調査書又は成績証明書	編入学	これまでの学習に対する取組状況から、「行動力」の評価を行います。また、3年次以降の履修に対応する「学力」についても評価します。

※令和6年度選抜においては、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う措置により、選抜方法、評価要素等が、「入学者選抜の基本方針」と一部異なることがあります。

〈入試に係る取組・改善状況〉

1. 令和5年度入試では、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う措置として、令和3年度及び4年度入試同様、調査書及び志望理由書の評価を実施しないことなど、出願書類の取扱いを変更した。
2. 北海道の高等学校への広報活動や本学学生の就職支援の拠点を札幌市内に設けることの検討を行った。令和5年4月に「札幌サテライト」を設置し、これまでの活動の強化、北海道在住の本学卒業生とのネットワーク構築を進めることとしている。
3. 高等学校の新学習指導要領の影響を受ける令和7年度入試改革に向け、前年度に引き続き県内の高校を直接訪問して、今後の進学傾向や高大連携事業への取組、入試対策等に関する情報収集等を行いながら検討を重ね、令和4年度中に実施教科・科目（配点を除く）を公表した。

学部等名 農学生命科学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.hirosaki-u.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000261.htm) (概要) 農学生命学部在教育研究上の目的は次の各号に掲げるとおりとする。 (1) 農学と生命科学分野の基礎的・専門的な知識を身につけた人材の育成 (2) 課題探求・問題解決能力を備えた専門技術者・研究者として活躍できる人材の育成 (3) 豊かな人間性を身につけ、創造性と主体性をもって地域はもとより国際的にも活躍できる人材の育成

○各学科の教育研究上の目的は次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 生物学科

遺伝・発生・生理・代謝・環境応答など根本的な生命現象に関する理解と、生物の多様性、適応戦略、進化のメカニズムや生態学、環境科学に関する知識及び世界自然遺産白神山地や北日本沿岸水域の豊かな自然に関わるフィールド教育によって、生物学の基礎から専門分野への展開を可能とし、生物の基礎的現象の解明と生物科学の発展に寄与できる人材並びに生物生態の動的・複合的理解、山・川・海をつなぐ自然環境の保全及び水産資源の増殖に資する实际的・応用的視野を持つ人材を育成する。

(2) 分子生命科学科

バイオテクノロジーの最先端技術に加えて物理化学や情報科学等の周辺境界領域の学問分野を取り入れ、未知の生命現象を含む様々な生命現象を細胞レベル、分子レベル、物質レベルで解明することができ、生命現象の解明を通して生物の持つ潜在能力を応用に活かすことができる人材並びに生化学・分子生物学を中心に微生物や酵素関連の教育及び遺伝子工学・糖鎖工学などのバイオテクノロジーの最先端を教育し、バイオマス等の次世代の有効資源利用・資源開発に貢献する人材を育成する。

(3) 食料資源学科

バイオテクノロジーによる食料資源の開発や改良、環境に調和した食料資源の生産に関わる技術の開発及び食品の機能性評価や食の安全性に関わる技術の開発において社会で活躍できる幅広い知識と専門技術を身につけた人材を育成する。

(4) 国際園芸農学科

国際化が進む世界の中で地域の実業と暮らしのよりよい未来を目指して、果樹学から作物学・蔬菜学・花卉学・畜産学及び生産機械学までの農業生産領域と食と農業をめぐる社会的経済的課題を総合的・実学的に把握して行動できる人材及び農業生産の効率化のための農業経営や国内外の農畜産物の流通機構の改善に関する实际的・応用的な素養と能力を有する人材を育成する。

(5) 地域環境工学科

農業土木や計画から生態系や社会制度まで多方面の分野に関わる知識・技術を習得することにより、農村・山間地の環境整備・保全に関わる総合的な知識を有する人材並びに水・土・農業土木関連施設についての専門的知識及びそれらのシステムや計画に関する知識の習得を通じて、技術者の社会的責任を認識し、地域の発展に貢献できる農業土木技術者を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/2/2020/03/02DPA00.pdf>）

（概要）

農学生命科学部は、農学及び生命科学教育の専門的知識を修得し、国際化の中で刻一刻と変化する農業・食産業分野、生命科学分野における技術革新に対応し活躍できる能力および高い生命倫理、職業倫理を併せ持つ専門技術者として以下の力を身に付けたものに対して、学士（農学生命科学）の学位を授与する。

【生物学科】

- ・農学および生命科学の各分野の専門性を身に付け、原理や理論、実践に基づいて自然や社会を見通す力
- ・学修した知識を具体的に活用し、専門技術者として地域社会や国際社会における問題を解決する力
- ・創造性と主体性をもって生涯にわたって自らを成長させ学び続ける力
- ・農学の専門技術者・研究者・理科教育・環境行政・農林水産業の各分野で発展を担う力
- ・生物およびそれを取りまく自然環境について課題を見つけ、その解決に向けて探求を進め、その成果をあらわすことができる実践的な能力

【分子生命科学科】

- ・農学および生命科学の各分野の専門性を身に付け、原理や理論、実践に基づいて自然や社会を見通す力
- ・学修した知識を具体的に活用し、専門技術者として地域社会や国際社会における問題を解決する力
- ・創造性と主体性をもって生涯にわたって自らを成長させ学び続ける力
- ・生物の潜在能力を応用し、バイオマス等の次世代の有用資源を開発しようとする力
- ・生物学・分子生物学・生化学および化学に関する各分野の学修をととして、生命現象全般を見通す力
- ・ライフサイエンスにおいて必要な課題探求・問題解決能力

【食料資源学科】

- ・農学および生命科学の各分野の専門性を身に付け、原理や理論、実践に基づいて自然や社会を見通す力
- ・学修した知識を具体的に活用し、専門技術者として地域社会や国際社会における問題を解決する力
- ・創造性と主体性をもって生涯にわたって自らを成長させ学び続ける力
- ・バイオテクノロジー、食品科学、作物生産環境に関する学修をととして、食料資源全般を見通す力
- ・バイオテクノロジーによる食料資源の開発や改良、食品の機能性評価や食の安全に関わる技術、食料資源の生産に関わる技術や環境等の諸課題を解決する力
- ・習得した食料資源に関する知識や技術を社会に役立てるために、粘り強く学び・研究し続ける力

【国際園芸農学科】

- ・農学および生命科学の各分野の専門性を身に付け、原理や理論、実践に基づいて自然や社会を見通す力
- ・学修した知識を具体的に活用し、専門技術者として地域社会や国際社会における問題を解決する力
- ・創造性と主体性をもって生涯にわたって自らを成長させ学び続ける力
- ・果樹学から作物学・蔬菜学・花卉学・畜産学及び生産機械学までの農業生産領域と食と農業をめぐる社会的経済的課題を総合的・実学的に把握し、行動する能力
- ・農業生産の効率化のための農業経営や国内外の農畜産物の流通機構の改善に関する実際の・応用的な素養と能力

【地域環境工学科】

- ・農学および生命科学の各分野の専門性を身に付け、原理や理論、実践に基づいて自然や社会を見通す力
- ・学修した知識を具体的に活用し、専門技術者として地域社会や国際社会における問題を解決する力
- ・創造性と主体性をもって生涯にわたって自らを成長させ学び続ける力
- ・社会的責任を自覚し、自主的継続的に学修し、多様な人々と協働し、国内外の地域社会に参画していこうとする行動力
- ・地域環境工学教育をととして、創造性と深い洞察力を兼ね備え、自主的に問題を解決する能力、論理的に思考する能力
- ・水・土・農業土木関連施設や農村・山間地に関わる総合的な工学知識

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/2/2020/03/02CPA00.pdf>)

(概要)

農学生命科学部は、農学および生命科学教育をととして課題探求・問題解決能力を備え

た専門技術者・研究者を養うカリキュラムを提供するという観点から、教育課程の編成・実施方針をつぎのように定める。

【生物学科】

1. 教育課程の編成・実施等

- ・教養教育：専門分野における能力を活かすために必要な知識や、社会で活躍するために必要な教養知識を養う学習を実施する。【スタディスキル導入科目群，自然・科学科目群，英語科目群】
- ・専門教育：基礎生物学，生態環境に関わる教育が，学科教育の根幹なので，以下の学習を実施する。
 - －見通す力：生物学の各分野の学修をとおして，自然や社会を見通す力を養う。【基礎生物学 A～D など】
 - －解決する力：基礎生物学，生態学，環境科学などの学修と，自然に関わるフィールド教育を基にして，国内外で活躍するために必要な課題探求・問題解決能力を育む場を提供する。【生物学野外実習など】
 - －学び続ける力（学習習慣の持続）：生物学分野の専門教育により，論理的思考を確立し，生涯をとおした探求学習の考え方を身に付けさせる。【生物学演習など】

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに CAP 制を実施することにより，卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促す。
- (2) 生物およびそれを取りまく自然環境について，学び続ける力，見通す力，課題を解決する力を涵養するための教育を行う。
- (3) 生物およびそれを取りまく自然環境について，主体的に課題を見つけ，その解決に向けて探求を進め，その成果をあらわすことができる実践的な能力を身に付けさせるための教育を行う。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため，カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の達成状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し，GPA を用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価する。
- (2) 学生の主体的かつ自律的な学習を促すための学生による授業評価アンケートや教育改善 FD 又は自己評価 FD 等の組織的な実施により，農学生命科学分野における技術革新に対応できる能力や生命・職業に関わる倫理観を評価する。
- (3) 各科目の学習成果は，定期試験，レポート，課題プリント，授業中の小テスト等で評価し，その評価方法に関しては授業内容と併せてシラバスにおいて科目毎に明示する。

【分子生命科学科】

1. 教育課程の編成・実施等

- ・教養教育：専門分野における能力を活かすために必要な知識や，社会で活躍するために必要な教養知識を養う学習を実施する。【スタディスキル導入科目群，自然・科学科目群，英語科目群】
- ・専門教育：生物学・分子生物学・生化学および化学に関する教育と実験実習教育は，学科教育の根幹なので，以下の学習を実施する。
 - －見通す力：生物学・分子生物学・生化学および化学に関する各分野の学修をとおして，生命現象全般を見通す力を養う。【生化学 I・II 等の学科共通コア科目，化学の基礎 A・B 等の専門基礎科目および専門科目】
 - －解決する力：専門教育での学修を基にして，ライフサイエンスにおいて必要な課題探求・問題解決能力を育む場を提供する。加えて「卒業研究」では具体的な研究課題に取組み，専門知識と技術を駆使して問題を解決する力を実践的に培う。【分子

生命科学実験Ⅰ・Ⅱ等】

－学び続ける力（学習習慣の持続）：専門教育をととして得た知識や技術が人生を豊かにすることを伝え、生涯学習の考え方を養う。【分子生命科学演習等】

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに CAP 制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促す。
- (2) バイオテクノロジーの最先端技術に物理化学や情報科学などの周辺・境界領域を取り入れたカリキュラム編成をもとに、課題探求力・問題解決能力を育む場を提供し、農学および生命科学分野における次世代の専門技術者・研究者の育成を目指した教育を行う。
- (3) 学部の1・2年次には広く教養を身に付ける科目や専門の基礎となる科目を、学年が進行するにしたがって専門性の高い科目を、それぞれ選択できるようなカリキュラムを組み、無理なく効果的な学習を促す。「卒業研究」では具体的な研究課題に取組み、専門知識と技術を駆使して問題を解決する力を実践的に培う。
- (4) 創造性と主体性を持って学び続けることの重要性和、専門教育をととして得た知識や技術が社会・環境に貢献するとともに自身の人生を豊かにすることを伝え、生涯学習の意義を伝える。在学中の各科目においては、予習・復習の目安を指導することで授業時間外の学習習慣の持続を促す。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の達成状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPA を用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価する。
- (2) 学生の主体的かつ自律的な学習を促すための学生による授業評価アンケートや教育改善 FD 又は自己評価 FD 等の組織的な実施により、農学生命科学分野における技術革新に対応できる能力や生命・職業に関わる倫理観を評価する。
- (3) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、課題プリント、授業中の小テスト等で評価し、その評価方法に関しては授業内容と併せてシラバスにおいて科目毎に明示する。

【食料資源学科】

1. 教育課程の編成・実施等

- ・教養教育：専門分野における能力を活かすために必要な知識や、社会で活躍するために必要な教養知識を養う学習を実施する。【スタディスキル導入科目群、自然・科学科目群、英語科目群】
- ・専門教育：バイオテクノロジー、食品科学および作物生産環境に関わる教育が、学科教育の根幹なので、以下の学習を実施する。
 - －見通す力：専門教育での学修をととして、自然や社会を見通す力を養う。【作物育種学Ⅰ,食品科学,基礎土壌学等の必修科目】
 - －解決する力：専門教育での学修を基にして、地域社会や国際社会において必要な課題探求・問題解決能力を育む場を提供する。加えて専門教育をととして生命倫理、職業倫理も実践的に培う。【食料資源学専門実験,卒業研究等】
 - －学び続ける力（学習習慣の持続）：専門教育をととして得た知識や技術が人生を豊かにすることを伝え、生涯学習の考え方を養う。【食料資源学概論等】

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに CAP 制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促す。
- (2) 食料資源学の専門性をもって自然や社会を見通せる力を涵養する教育を行う。
- (3) 自ら課題を見出し、その解決に向けて探求を進める力を養うために、学生が主体と

なる能動的な授業を行う。

- (4) 自然科学への興味だけでなく、科学や技術は常に進歩していることを理解させ、生涯にわたって学ぶ姿勢を身に付ける教育を行う。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の達成状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPA を用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価する。
- (2) 学生の主体的かつ自律的な学習を促すための学生による授業評価アンケートや教育改善 FD 又は自己評価 FD 等の組織的な実施により、農学生命科学分野における技術革新に対応できる能力や生命・職業に関わる倫理観を評価する。
- (3) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、課題プリント、授業中の小テスト等で評価し、その評価方法に関しては授業内容と併せてシラバスにおいて科目毎に明示する。

【国際園芸農学科】

1. 教育課程の編成・実施等

- ・教養教育：専門分野における能力を活かすために必要な知識や、社会で活躍するために必要な教養知識を養う学習を実施する。【スタディスキル導入科目群，自然・科学科目群，英語科目群】
- ・専門教育：農業の生産領域および食と農業の経済領域に関わる教育は、学科教育の根幹なので、以下の学習を実施する。
 - ー見通す力：農業の生産領域および食と農業の経済領域に関わる各分野の学修をとおして、農業や食に関する見通す力を養う。【食料経済論，国際園芸農学入門など】
 - ー解決する力：専門教育での学修を基にして、農業の生産領域および食と農業の経済領域に関わって地域社会や国際社会において必要な課題探求・問題解決能力を育む場を提供する。【地域ブランド農産物論，卒業研究など】
 - ー学び続ける力（学習習慣の持続）：専門教育をとおして勉学の楽しさと知識が人生を豊かにすることを伝え、生涯学習の考え方を養う。【園芸農学専攻実験・実習，農場実習など】

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに CAP 制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促す。
- (2) 農業の生産領域および食と農業の経済領域に関わる専門教育を行い、それらを通じ学生の農業や食に関する見通す力を養う。
- (3) 学習を基にしてさらに生産現場を見せることにより、農業の生産領域および食と農業の経済領域や国際社会において必要な課題探求・問題解決能力を育む。
- (4) 専門教育や現場の視察をとおして、勉学の楽しさと知識が人生を豊かにすることを伝える。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の達成状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPA を用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価する。
- (2) 学生の主体的かつ自律的な学習を促すための学生による授業評価アンケートや教育改善 FD 又は自己評価 FD 等の組織的な実施により、農学生命科学分野における技術革新に対応できる能力や生命・職業に関わる倫理観を評価する。
- (3) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、課題プリント、授業中の小テスト等で評価し、その評価方法に関しては授業内容と併せてシラバスにおいて科目毎に明示する。

【地域環境工学科】

1. 教育課程の編成・実施等

- ・教養教育：専門技術者の基礎となる力、すなわち、地球規模の視点から多面的に問題を把握し解決するために必要な知識を養う学習や、多様性のあるチームで作業を進める基礎的な力やコミュニケーションに関する基礎的な力を養う学習を実施する【スタディスキル導入科目群、英語科目群】
- ・専門教育：専門技術者の根幹となる力を養うため、以下の学習を実施する。
 - －見通す力：専門工学知識の基礎、水・土・構造に関する工学知識、システム・計画技術、地域に貢献できる能力について見通す力を養う。【土壤物理学・農業水理学など】
 - －解決する力：専門技術者としてのコミュニケーション能力やグループワーク能力、総合的な課題に対し解決プロセスを構築し解決策を構築するデザイン能力を培う。加えて専門技術者として求められる倫理観を養う。【専門英語・地域環境工学実験など】
 - －学び続ける力（学習習慣の持続）：専門技術者として継続的に自己研鑽に努める力を培う。【技術者倫理学・地域環境工学実習など】

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに CAP 制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促す。
- (2) H18 年度に認定された「JABEE（日本技術者教育認定機構）認定技術者教育プログラム」の教育システムを実施することにより、無理なくかつ効果的に卒業までの履修期間の学習を促す。
- (3) 創造性と主体性を持って学び続け、専門技術者として地域（国際）社会に関わる問題を解決する力と農学生命科学の専門性を持って自然や社会を見通す力を涵養する教育を行う。
- (4) 学生自らが学習達成状況を確認できるための「学びの記録（学習記録ノート）」を卒業まで作成することで、これまでの学習の反省と今後の学習への抱負を明確にししながら、学生が主体となる能動的な授業を行う。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の達成状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPA を用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価する。
- (2) 学生の主体的かつ自律的な学習を促すための学生による授業評価アンケートや教育改善 FD 又は自己評価 FD 等の組織的な実施により、農学生命科学分野における技術革新に対応できる能力や生命・職業に関わる倫理観を評価する。
- (3) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、課題プリント、授業中の小テスト等で評価し、その評価方法に関しては授業内容と併せてシラバスにおいて科目毎に明示する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/4/2022/11/nousei_ap_2022.pdf）

（概要）

1) 農学生命科学部が求める学生像

農学生命科学部では、農学と生命科学分野の基礎的・専門的な知識を身に付け、課題探求・問題解決能力を備えた専門技術者・研究者として活躍でき、創造性と主体性をもって地域はもとより国際的にも活躍できる人材を育成することを目的としています。この目的のため、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- ・入学後に修める教養教育や、農学および生命科学の各分野の専門教育に必要な基礎学力（高等学校の教科全般、特に理科、英語、数学）
- ・農学および生命科学をとらして国際社会や地域社会に参画しようとする行動力
- ・農学と生命科学に興味を持ち、これらの基礎的・専門的な知識を継続的に学びたいとする意欲

また、農学生命科学部の各学科は、それぞれ次のような学生を求めます。

【生物学科】

- ・生物学の遺伝子レベルから生態系レベルにわたるさまざまな基礎的知識や応用的知識を、実社会への参画をみすえ、積極的に身に付けようとする行動力を持つ人
- ・生物学に強い興味を持ち、動植物の生命現象の解析を通じて、生物の基礎的現象のしくみや生物が持つ多様性、適応戦略、進化のメカニズムの解明に意欲のある人

【分子生命科学科】

- ・分子レベルでの生命現象の理解や知識を活用した産業（例えば、医薬品、食品、化学工業など）および学問分野で活躍しようとする行動力を持つ人
- ・生命現象のしくみや機能に興味を持ち、高校で学習した生物や化学の知識を基に分子レベルでこれを理解し、さらに追求する意欲のある人

【食料資源学科】

- ・バイオテクノロジー、食品科学、作物生産環境について目的意識を持って学ぶことができ、これらの研究を積極的に行うことができる行動力を持つ人
- ・学びの中からさまざまな課題を自ら見出し、解決する力を養い、学修後にそれを食料生産や食品産業に役立てようとする意欲のある人

【国際園芸農学科】

- ・地域農業の活性化や国際的な展開に取り組む行動力を持つ人
- ・農業生産の技術とその原理を学ぶことに意欲のある人
- ・食と農の経済を学ぶことに意欲のある人

【地域環境工学科】

- ・自立した農業土木技術者として、社会的責任を自覚し、自主的継続的に学修し、多様な人々と協働し、国内外の地域社会に参画していこうとする行動力を持つ人
- ・数学や物理学などの自然科学に関する工学基礎知識を身に付け、水・土・農業土木関連施設や農村・山間地に関わる総合的な工学知識を習得した農業土木技術者を目指し、国内外の地域社会の問題解決や発展に貢献しようとする意欲のある人

2) 入学志願者に求める学習の取組

- ・農学および生命科学の各分野の教育を受けるために必要な基礎学力だけではなく、論理的思考力、読解力、記述能力などの修得が必要です。
- ・自分自身の考えを持ち、さまざまな課題に立ち向かい、解決する行動力を身に付けておくことが必要です。
- ・実験室のみならずフィールドでの学習・研究活動を自主的かつ積極的に取り組む意欲が必要です。

3) 入学者選抜の基本方針

農学生命科学部では学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的な評価方法により別表のとおり入学者を選考します。

【別表 1】入学者選抜方法と重点評価項目					
選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目		
			学力	行動力	意欲
一般選抜 (前期)	共通テスト	高等学校修了レベルの学習の達成度を評価するという観点から、共通テストと個別学力検査により「学力」を評価します。また、志望理由書と調査書により「行動力」、「意欲」を評価します。これらを総合評価して選抜します。	◎	○	○
	個別学力検査				
	志望理由書				
	調査書				
一般選抜 (後期)	共通テスト	高等学校修了レベルの学習の達成度を評価するという観点から、共通テストと個別学力検査により「学力」を評価します。また、志望理由書と調査書により「行動力」、「意欲」を評価します。これらを総合評価して選抜します。	◎	○	○
	個別学力検査				
	志望理由書				
	調査書				
総合型選抜Ⅰ	志望理由書	アドミッション・ポリシーを正しく理解したうえで、本学部のカリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための資質・能力、適性、意欲・関心などを評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	○	◎	◎
	調査書				
	小論文				
	個人面接				
総合型選抜Ⅱ	共通テスト	アドミッション・ポリシーを正しく理解したうえで、本学部のカリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための資質・能力、適性、意欲・関心などを評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。また、基礎学力をより適正に判断するため、共通テストの成績を選抜に用います。	○	◎	◎
	志望理由書				
	調査書				
	個人面接				
編入学入試 (第3年次)	小論文	本学部で専門教育を受けるために必要な「学力」、「行動力」、「意欲」を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	◎	○	○
	個人面接				
	編入学願				
	成績証明書				

注) 点数評価・段階評価する項目のうち、◎大きい比重、○小さい比重

【別表 2】入学者選抜方法の内容と評価要素		
選抜方法	選抜区分	選抜内容と評価要素
小論文	総合Ⅰ	農学や生命科学などに関連する、いくつかのテーマについて論述させる。論理的思考力、読解力、記述能力などを有しているかどうかを精査することにより、「学力」を評価する。
	編入学	
個人面接	総合Ⅰ	志望理由、興味・関心がある研究分野などについて、質疑応答を行うことにより、「行動力」、「意欲」を評価する。また、面接の過程で、口頭試問を行うことにより、「学力」を評価する。編入学入試では「学力」を重視するため、より専門的な内容の口頭試問を行うことがある。
	総合Ⅱ	
	編入学	
志望理由書	一般・前期	志望理由、将来への展望、自己PRなどについて、これまでの勉強やさまざまな活動をとおして得た経験を基に記入する。本学部に対する理解や、専門分野に対する強い興味・関心、主体的に学び続けようとする積極性などにより、「行動力」、「意欲」を評価する。
	一般・後期	
	総合Ⅰ	
	総合Ⅱ	
調査書	一般・前期	高等学校での科目の履修状況、教科外活動の状況、ボランティア活動・プロジェクト活動など校外での活動、各種の資格・免許取得などにより、「行動力」、「意欲」を評価する。
	一般・後期	
	総合Ⅰ	

	総合Ⅱ	
編入学願	編入学	本学部に対する理解や、専門分野に対する強い興味・関心、主体的に学び続けようとする積極性などにより、「行動力」、「意欲」を評価する。
成績証明書	編入学	教養科目、専門科目の成績を精査することにより、各学科での教育研究内容に関する「学力」を評価する。

※令和6年度選抜においては、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う措置により、選抜方法、評価要素等が、「入学者選抜の基本方針」と一部異なることがあります。

〈入試に係る取組・改善状況〉

1. 令和5年度入試では、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う措置として、令和3年度及び4年度入試同様、調査書及び志望理由書の評価を実施しないことなど、出願書類の取扱いを変更した。
2. 北海道の高等学校への広報活動や本学学生の就職支援の拠点を札幌市内に設けることの検討を行った。令和5年4月に「札幌サテライト」を設置し、これまでの活動の強化、北海道在住の本学卒業生とのネットワーク構築を進めることとしている。
3. 高等学校の新学習指導要領の影響を受ける令和7年度入試改革に向け、前年度に引き続き県内の高校を直接訪問して、今後の進学傾向や高大連携事業への取組、入試対策等に関する情報収集等を行いながら検討を重ね、令和4年度中に実施教科・科目（配点を除く）を公表した。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.hirosaki-u.ac.jp/education/educationalinfo/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	6 人	－					6 人
人文社会科学部	－	22 人	30 人	1 人	15 人	人	68 人
教育学部	－	26 人	32 人	7 人	9 人	人	74 人
農学生命科学部		30 人	31 人	1 人	15 人	人	77 人
大学院		126 人	84 人	34 人	129 人	22 人	395 人
附属病院		0 人	9 人	31 人	64 人	40 人	144 人
附置研究所		8 人	6 人	人	3 人	人	17 人
その他		3 人	9 人	3 人	10 人	2 人	27 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		288 人					288 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：https://hue2.jm.hirosaki-u.ac.jp/search?m=home&l=ja					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
本学教員のFDに関する意識向上，教育の改善を促すことを企図して，FDワークショップ，シンポジウムを開催している。							

また、FD活動状況をホームページで公開している。

<https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/educationaldata/fd.html>

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文社会科学部	265 人	284 人	107.2%	1,060 人	1,173 人	110.7%	－人	－人
教育学部	160 人	171 人	106.9%	640 人	692 人	108.1%	－人	－人
医学部	322 人	329 人	102.2%	1,672 人	1,670 人	99.9%	50 人	21 人
医学科	112 人	112 人	100.0%	772 人	800 人	103.6%	20 人	20 人
保健学科	200 人	207 人	103.5%	860 人	828 人	96.3%	30 人	1 人
心理支援科学科	10 人	10 人	100.0%	40 人	42 人	105.0%	－人	－人
理工学部	360 人	361 人	100.3%	1,460 人	1,508 人	103.3%	10 人	8 人
農学生命科学部	215 人	220 人	102.3%	860 人	917 人	106.6%	若干名	3 人
合計	1,322 人	1,365 人	103.3%	5,692 人	5,960 人	104.7%	60 人	32 人

(備考)

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文社会科学部	281 人 (100%)	9 人 (3.2%)	256 人 (91.1%)	16 人 (5.7%)
教育学部	177 人 (100%)	14 人 (7.9%)	151 人 (85.3%)	12 人 (6.8%)
医学部	330 人 (100%)	17 人 (5.2%)	180 人 (54.5%)	133 人 (40.3%)
医学部医学科	130 人 (100%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	130 人 (100.0%)
医学部保健学科	200 人 (100%)	17 人 (8.5%)	180 人 (90.0%)	3 人 (1.5%)
理工学部	343 人 (100%)	149 人 (43.4%)	178 人 (51.9%)	16 人 (4.7%)
農学生命科学部	214 人 (100%)	68 人 (31.8%)	137 人 (64.0%)	9 人 (4.2%)
合計	1345 人 (100%)	257 人 (19.1%)	902 人 (67.1%)	186 人 (13.8%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)

【主な進学先】弘前大学大学院，北海道大学大学院，東北大学大学院，東京大学大学院，京都大学大学院，筑波大学大学院，大阪大学大学院，名古屋大学大学院，岐阜大学大学院，等

【主な就職先】国家公務員，地方公務員，学校教員，医療施設（病院等），ニトリ，日本マイクロニクス，青南商事，東奥日報社，ホクレン農業協同組合，DCM，ニプロ，北海道 NS ソリューションズ，三菱電機エンジニアリング，全国農業協同組合連合会，地方銀行，等

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
人文社会科学部	288 人 (100%)	254 人 (88.2%)	28 人 (9.7%)	6 人 (2.1%)	0 人 ()
教育学部	179 人 (100%)	167 人 (93.3%)	9 人 (5.0%)	3 人 (1.7%)	0 人 ()
医学部	316 人 (100%)	286 人 (90.5%)	27 人 (8.5%)	3 人 (1.0%)	0 人 ()
医学部医学科	112 人 (100%)	91 人 (81.2%)	20 人 (17.9%)	1 人 (0.9%)	0 人 ()
医学部保健学科	204 人 (100%)	195 人 (95.6%)	7 人 (3.4%)	2 人 (1.0%)	0 人 ()
理工学部	361 人 (100%)	325 人 (90.0%)	24 人 (6.7%)	12 人 (3.3%)	0 人 ()
農学生命科学部	227 人 (100%)	201 人 (88.6%)	15 人 (6.6%)	11 人 (4.8%)	0 人 ()
合計	1,371 人 (100%)	1,233 人 (89.9%)	103 人 (7.5%)	35 人 (2.6%)	0 人 ()
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業計画(シラバス)及び学年暦をホームページで公表している。 https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/syllabus/ https://www.hirosaki-u.ac.jp/campuslife/campus/calendar/ 各学部等において授業履修の手引き（刊行物）を作成し配付している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 三つの方針（ポリシー） https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/policy.html 弘前大学 GPA に関する要項 https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/2/2012/07/GPA.pdf				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文社会科学部	文化創生課程 文化資源学コース	124 単位	有	「弘前大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規程」により次のとおり定められている。 履修登録できる単位の上限は、全ての学部（医学部は1年次のみ）で教養教育科目と専門教育科目を併せ
	文化創生課程 多文化共生コース	124 単位		
	社会経営課程 経済法律コース	124 単位		
	社会経営課程 企業戦略コース	124 単位		
	社会経営課程 地域行動コース	124 単位		

教育学部	学校教育教員養成課程初等中等教育専攻小学校コース	130 単位		て、年間で 48 単位となっている。ただし、前年度の GPA が 3.0 以上の者は、各学部の長の定めるところにより 54 単位まで変更することができる。 なお、教員免許状（教育学部を除く）及び学芸員等の資格取得の科目として指定する授業科目、卒業研究、集中講義による授業科目（夏季休業及び学年末休業期間中に開講されるものをいう。）、実験・実習及び実技については履修登録単位数の上限には含まないものとする。 また、各学部の長が特に必要と認める学生にあつては、履修登録単位数の上限を別に定める単位数とすることができる。
	学校教育教員養成課程初等中等教育専攻中学校コース	130 単位		
	学校教育教員養成課程特別支援教育専攻小学校コース	142 単位		
	学校教育教員養成課程特別支援教育専攻中学校コース	140 単位		
	養護教諭養成課程	130 単位		
医学部	医学科	225 単位		
	保健学科 看護学専攻	125 単位		
	保健学科放射線技術科学専攻	137 単位		
	保健学科 検査技術科学専攻	139 単位		
	保健学科 理学療法学専攻	135 単位		
	保健学科 作業療法学専攻	129 単位		
	心理支援科学科	127 単位		
理工学部	数物科学科 数理科学コース	134 単位		
	数物科学科物質宇宙物理学コース	134 単位		
	数物科学科応用計算科学コース	134 単位		
	物質創成化学科	134 単位		
	地球環境防災学科	134 単位		
	電子情報工学科	134 単位		
	機械科学科知能システムコース	134 単位		
	機械科学科医用システムコース	134 単位		
	自然エネルギー学科	134 単位		
農学生命科学部	生物学科 基礎生物学コース	124 単位		
	生物学科 生態環境コース	124 単位		
	分子生命科学科 生命科学コース	124 単位		
	分子生命科学科 応用生命コース	124 単位		
	食料資源学科食料バイオテクノロジーコース	124 単位		
	食料資源学科 食品科学コース	124 単位		
	食料資源学科食料生産環境コース	124 単位		

	国際園芸農学科 園芸農学コース	124 単位		
	国際園芸農学科 食農経済コース	124 単位		
	地域環境工学科 農山村環境コース	124 単位		
	地域環境工学科 農業土木コース	124 単位		
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法： https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/wp-content/uploads/sites/2/2012/07/GPA.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法： https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/educationaldata.html		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.hirosaki-u.ac.jp/info/access/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学		535,800 円	282,000 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組	
（概要） 1. 学生の協力による学修相談・支援サービス 学内ワークスタディに登録している2年次以上の学部学生の中から所属学部等を考慮し、6名程度の学生（以下「ピアサポーター」という。）が、正課外で学内の待機場所で学生の学修相談に応じており、その相談内容は、次のとおりである。 (1)学修方法：自学自習のポイント、レポートの書き方、文献検索の方法、試験勉強の仕方等 (2)履修登録：必要な履修科目や推奨する履修科目のアドバイス、経験談等 (3)学習内容：授業で分からなかった簡単な内容の質問 (4)その他：その他の学修に関わる相談 また、総合型選抜Ⅰ合格者に対して、入学までの期間の質問等にメール等で応じている。。 2. 補習教育（リメディアル教育） 大学において学修する上で必要となる基礎的な知識を修得することを目的としたもので、本学の教育課程外で開講する数学、物理、化学及び生物の科目について、原則として本学の学部1年次に在籍する学生のうち受講を希望する者を補講対象者として、補習教育を行っている。 3. 学生担任制度 各学部では、学習及び生活全体の指導を行うため、クラス編成し各クラスに担任をおいている。この制度では担任教員と学生相互の人間的交流の場としてクラスアワー等の時間を設けている。 4. オフィスアワー すべての教員がオフィスアワーを設け、教員が各自の研究室において履修相談や進路相談などについて学生と一緒に考えるための時間を設けている。	

5. 学生修学支援室

単位の修得状況が思わしくない学生に対する相談等を行う学生修学支援室を設置し、学生特別支援室のコーディネーターと連携し、修学支援学生の修学上の相談等の総合的な支援を行っている。

〈日本学生支援機構の給付型奨学金の採用候補者である入学者又はその他の入学者に対し入学金及び前期分授業料等の徴収を入学後まで猶予する取組概要〉

1. 日本学生支援機構の給付型奨学金の採用候補者である入学者又は在学採用に申請する入学者、その他減免事業等の申請要件に該当する入学者に対して、学生からの申請に基づき、入学金及び前期分授業料等の徴収を入学後まで猶予し、減免結果に応じて入学科等を徴収する取組を実施している。
 - (1) 高等教育の修学支援制度（対象者：日本学生支援機構給付型奨学金の採用候補者及び在学採用申請者、条件：日本学生支援機構が定める申請要件、猶予期日：減免結果通知後の本学が指定する期日まで）
 - (2) 被災学生支援（対象者：東日本大震災又は令和4年4月以降に災害救助法が適用された災害により被害を受けた学生、条件：上記災害により主たる家計支持者が死亡又は行方不明の者、保護者居住家屋（持家に限る）が全壊・大規模半壊・全流出した者等、猶予期日：減免結果通知後の本学が指定する期日まで）
 - (3) 弘前大学入学料減免及び授業料減免事業（対象者：経済的に困難であるが「大学等への入学時期に関する要件」又は「国籍に関する要件」により日本学生支援機構の給付奨学金に申請できない者、条件：経済的要件（本人及び父母の市区町村民税の所得割額の合計が51,300円未満であること等）に該当すること、猶予期日：減免結果通知後の本学が指定する期日まで）

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

1. キャリアセンター

キャリアセンターは、キャリア教育及び就職支援を通して本学学生の進路決定や生涯を通じた持続的な就業力の育成をより円滑に推進することを目的とし、インターンシップ、就職ガイダンス、業界研究会、各種企業説明会、就職相談、求人開拓及び情報収集等、さまざまなキャリア支援を行っている。

- (1) キャリア教育—自らの生き方を見つけ、実現する力を育成する—

キャリア教育の取り組みを、社会全体の中での人生の在り方を見つけ、実現するための「生き方教育」と位置付けている。地域の活性化を支える高い教養と幅広い知識を有する社会人として、社会に羽ばたくためのキャリア形成を促す。

- (2) 進路・就職相談

専任のキャリアアドバイザーが、年間を通して約2,100件の相談に対応している。1年生から利用することができ、就職活動に向けて何をすればよいのか、という初歩的な相談から、インターンシップ参加のための準備、採用試験に向けた面接練習やエントリーシート添削等、様々な相談に対応している。

- (3) ガイダンス

就職活動を支援する多種多様なガイダンスを年間約70回を開催している。就職活動のための一般的なガイダンスから、自己分析、志望する分野や企業の絞込み、履歴書やエントリーシートの書き方、面接対策等、事前準備のきめ細やかな支援を行っている。

- (4) 各種説明会

学内で開催する業界研究会や企業説明会の他、3月には「弘前大学の学生を是非採用したい!」という企業約245社を全国から招いて合同企業説明会を開催し、学生がさまざまな企業を知る機会となっている。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、Web形式で実施した。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 1. 「学生総合相談室」相談員（各学部教員 2 名＋学務部職員 4 名） 各種相談と相談内容により適任者・関係機関を紹介する。 2. 保健管理センター 身体のことや健康問題について、医師や看護師が相談に応じる。また、学業・進路・人間関係など学生生活上の悩みについては、カウンセラーが相談に応じる。 3. 学務部学生課「なんでも相談」窓口 学生生活全般について、電話・メールでの相談を含めて「なんでも」相談に応じる。相談内容により、適任者・関係機関を紹介する。 4. 「学生特別支援室」 特任教員（コーディネーター）が学生本人、授業担当教員、保護者等と面談し、障害等に伴う修学・学生生活上の困難について確認したうえで、その解決方法等について話し合いながら、より良い学生生活を送ることができるよう支援する。 5. 「弘前大学ハラスメント受付・相談サービス」 学生がハラスメント行為を受けた場合に、24 時間受付・年中無休で相談を受け付ける外部相談窓口。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F102110100572
学校名	弘前大学
設置者名	国立大学法人弘前大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		808人	783人	845人
内 訳	第Ⅰ区分	437人	429人	
	第Ⅱ区分	219人	225人	
	第Ⅲ区分	152人	129人	
家計急変による支援対象者（年間）				11人
合計（年間）				856人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）	—		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	13人		
計	21人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	—		
G P A等が下位4分の1	56人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	56人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。